

第七十三回帝國議會
衆議院

日滿司法事務共助法案外三件委員會會議錄(速記)第四回

付託議案
日滿司法事務共助法案(政府提出、貴族院送付)
民法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
民事訴訟法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

會議

昭和十三年三月十一日(金曜日)午後一時三十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 松永 東君

理事內藤 正剛君 理事田中 亮一君

理事原 玉重君 理事中野 治介君

原 夫次郎君 伊藤 五郎君

稻田 直道君 中村 高一君

長谷 長次君 小山 亮君

同日委員小林絹治君辭任ニ付其ノ補闕トシ

テ中野治介君ヲ議長ニ於テ選定セリ

同日理事小林絹治君ノ補闕トシテ中野治介君理事ニ當選セリ

出席政府委員左ノ如シ

外務政務次官 松本 忠雄君

司法政務次官 久山 知之君

司法參與官 藤田 若水君

司法省刑事局長 松阪 廣政君

司法省調查部長 井上 登君

司法書記官 齋藤 直一君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

外務省條約局長 三谷 隆信君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

日滿司法事務共助法案(政府提出、貴族院送付)

○松永委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス、理事ノ小林絹治君ガ委員ヲ辭任ニナリマシタ

ノデ中野治介君ニ代ツテ戴イテ、而シテ理事ヲ同君ニ御願スルコトニナリマシタカラ左

様御承知ヲ願ヒマス

是カラ質問ヲ繼續スルコトニ致シマス——

原夫次郎君

○原夫委員 日滿司法事務共助法ニ關シテ政府當局ニ御尋シタイノデアリマスルガ、先ヅ政府ハ此貴族院ノ修正ニ付テハ御同意

ニナツテ居ルノデスカ

○松阪政府委員 第六條ニ付キマシテ貴族院ニ於テ修正ガアリマシタガ、其修正ノ字

句ハ異ツテ居リマスケレドモ、精神、内容、解釋ニ於テハ政府ノ原案ヲ提出シマシタ趣旨ト同一デアリマスノデ、ソレニ同意致シ

タ次第デアリマス

○原夫委員 此共助法ノ第一條ノ三ノ犯罪ノ搜查、四ノ被疑者又ハ被告人ニ對スル勾引狀ノ發付又ハ執行、此兩項目ニ付テ御尋致シタイノデアリマスガ、先ヅ勾引狀ノ執行ノ問題ハ姑ク措イテ、勾引狀ノ發付ト云フコトト犯罪ノ搜查、此兩項目ニ對スル滿洲國ノ法院又ハ檢察廳ノ囑託ニ依ル其囑託事項トノ關係ハドウ云フ風ナ關係ニナルノデスカ、ソレヲ伺ツテ置キタイノデス

○松阪政府委員 廣ク犯罪ノ搜查ト申シマスル時ニハ固ヨリ被疑者ニ對スル勾引狀ノ發付竝ニ執行モ包含セラル、ノデアリマスガ、斯様ニ第三號ニ犯罪ノ搜查トシ、第四號ニ被疑者ノ勾引狀ノ發付又ハ執行ト云フ風ニ書キ分ケマスナラバ、三ノ犯罪ノ搜查中ニハ被疑者ノ勾引狀ノ發付執行ハ勿論包含シナイノデアリマス、犯罪ノ搜查中ニハ令狀ノ發付ト云フコトハ包含シナイ趣旨ニ解釋スベキモノト考ヘマス、其點ニ付キマシテハ外地ト内地間ノ協力ヲ規定致シテ居

リマスル司法事務共助法ニ於キマシテモ、犯罪ノ搜查ト令狀ノ發付執行ト云フコトヲ書キ分ケテ居ルノデアリマス、其趣旨ト理論ノ根本ニ於テハ同一ニ歸著スル譯デゴザイマス

○原夫委員 サウスルト結局此第一條ノ三ノ犯罪ノ搜查ヲ滿洲ノ檢察廳カラ囑託セラレタル場合ニ於テ、此搜查ト云フモノノ中ニハ被疑者又ハ被告人ヲ勾引スルコトニ關シテノ囑託ハ此犯罪ノ搜查中ニハ入ラナイト見テ宜シイノデアリマス

○松阪政府委員 洵ニ御説ノ通りデアリマシテ、滿洲國ノ檢察廳カラ我國ノ檢事局ニ對シテ、何ノ某ニ對シテ是々ノ犯罪ノ被疑事實ニ付テ搜查ヲシテ吳レト云フ囑託ガアリマシタル場合ニ、例ヘバ檢事ガ其者ヲ喚出シテ、本人ガ喚出シニ應ジナイト云フヤウナ場合ニ、假ニ日本ノ刑事訴訟法ノ百二十三條ニ當ル條件ニ該當シマシテモ、嫌疑ノ爲ニソレニ對シテ檢事ガ勾引狀ヲ發スルト云フコトハ爲サナイ、又左様ナモノハ其

犯罪ノ捜査中ニハ包含シテ居ナイノデアリマス、勾引狀ヲ檢事ガ發シマスル場合ハ、必ズ滿洲國ノ檢察廳ヨリ日本ノ檢事局ヘ何ノ某ニ對シテ勾引狀ヲ發付シテ呉レ、或ハソレニ對シテ發シタル勾引狀ヲ執行シテ吳レト云フ囑託ノアツタ場合ニ限ル譯デゴザイマス

○原(夫)委員 次ニ四ノ被疑者又ハ被告人ニ對スル勾引狀ノ發付ノ囑託ト云フモノハドンナモノデセウ、ドウ云フコトヲ謂フノデセウカ

○松阪政府委員 例ヲ舉ゲテ申上ゲマスルナラバ、滿洲國ニ於テ滿洲國ノ刑法ニ觸ル、犯罪ヲ犯シタル者ガ内地ヘ逃ゲテ來タ場合ニ、滿洲國ノ檢察廳ガ日本ノ檢事局ニ對シテ、其者ニ對シテ急速ニ取押ヘノ必要ナル場合ニハ、先方カラ日本ノ檢事局ヘ、其者ニ對シテ勾引狀ヲ發付シテ執行シテ吳レト云フ囑託ガアルノデアリマス、左様ナ場合ニ所謂勾引狀ノ發付ノ囑託ニ應ズル譯デアリマス

○原(夫)委員 其時ニハ後ノ勾引狀ノ執行ノ方デ毫モ差支ナイト思フノデス、即チ滿洲ニ於ケル犯罪人ガ、日本人タルト滿洲人タルトヲ問ハズ、内地ニ逃亡シタト云フ場合ニ於テハ、逃亡ト云フ以上ハ、大體ニ於

テ令狀ヲ執行セラレタ、其執行中カ、或ハマダ發付ニナラナクテモ是カラ發付シヨウト云フ場合ニ、被疑者又ハ被告人ガ逃亡シテ居ナイト云フ場合ニ於テハ、先ヅ滿洲國ノ當局デ勾引狀ヲ發付シテ、ソレノ執行ヲ内地ノ方ニ囑託スル、是ガ大體順當デハナイカト思フノデスガ、自分ノ手許デハ勾引狀モ勾留狀モ發付シナイデ置イテ、サウシテ日本帝國ニ對シテ勾引狀ヲ發付シテ吳レロ、斯ウ云フ囑託ガ一體ドウ云フ效用ガアルノデスカ、今刑事局長ノ御話ノ場合ハ、實際ニ於テサウ云フヤウナ囑託ハ無用デ、左様ナコトヲヤラス必要ハナイト思フノデスガ、其點ヲ確メシマス

○松阪政府委員 通常ノ場合ニ於キマシテハ成程御説ノ如ク滿洲國ニ於テ滿洲國ノ檢察官ガ勾引狀ヲ發付致シマシテ、其滿洲國ノ發付シタル勾引狀ヲ日本ヘ送りマシテ、其執行ヲ囑託スル場合ガ多クアラウト思ヒマスルガ、事急速ヲ要シマシテ、急イデ取押ヘナケレバ其者ノ住所ガ直チニ不明ニナル虞ガアルト云フヤウナ場合ニハ、滿洲國ノ檢察官ニ於テ勾引狀ヲ發付シマシテ、其勾引狀ヲ書面デ郵便ニ託シテ此方ヘ送ルト云フコトニナリマス、若干ノ日時ヲ要シマスルノデ、急速ノ間ニ合ハヌ、左様ナ場

合ニハ向フカラ電報ヲ以チマシテ此方ヘ囑託ガアリマス、日本ノ檢事ニ對シテ電報ニ依ッテ勾引狀ノ發付ヲシ、ソレヲ執行シテ吳レト云フ依頼ガアル場合ガアルノデアリマス、サウ云フ場合モ亦生ズルノデアリマスルカラ、單ニ勾引狀ノ執行ノミナラズ、勾引狀ノ發付ヲモ囑託シ得ルコトニ規定致シタノデアリマス、現在ノ實情カラ申上ゲマシテモ、内地ノ檢事局ト、治外法權撤廢前ノ滿洲ニ於ケル領事裁判權トノ間ニ、オ互ニ勾引狀ノ發付ヲ囑託シタコトモアリマシテ、又勾引狀ノ發付ヲ電報デ囑託シマシテ其發付ヲ囑託シタ事例モ屢アリマス、内地外地間ニ於キマシテモ同様ナ取扱ヲシテ居リ、内地外地間ノ司法事務共助法ニ於キマシテモ、第二條第三號ニ令狀ノ發付及ビ執行ト云フコトニ規定ヲシテ、令狀ノ發付ヲ囑託シ得ル規定ヲシタノデアリマス、實際上必要ヲ生ズル場合ガアルノデアリマス、此點御諒承ヲ願ヒタイト存ジマス

○中村委員 議事進行ニ於テ——此問題ニ付テハ、前回委員長ハ質疑ヲ終了シタリトシテモウ御宣告ニナッテ居ルヤウデアリマスガ、今日更ニ質疑ヲ繼續セラレルコトニナツタノデアリマス

○松永委員長 御答シマス、實ハ此法案ニ

限ッテハ質疑ヲ打切ルト云フコトニ宣告シテ居ルノデアリマスケレドモ、併ナガラ特ニ原君カラ此問題ニ付テ質疑ヲ試ミタイカラト云フ申出デアリマシタノデ、從來ノ慣例モアルコトデアリマスカラ、御許シスルコトニ致シタ譯デアリマス、御承知ヲ願ヒマス

○中村委員 諒承致シマシタ

○原(夫)委員 成程此内地ノ共助法ノ方デハ、斯ウ云フ規定ガアルノデアリマシテ、實ハ後ニ私御尋シタイト思フ點ガアルノハ、内地ノ共助法トハ此國際關係ノモノニ於テハ一寸趣キ異ニシナケレバナラスト思フノデアリマス、是ハ後ニ御尋スル點デアリマスガ、今刑事局長ノ言ハレタヤウナ事急速ヲ要スルト云フ場合ニハ、ドウセ是ハ内地デ檢事ガ勾引シテモ、ソレヲ執行スル場合ト相俟ッテ考ヘマス、ドウシテモサウ云フ急速ヲ要スル場合ニ於テハ、滿洲國ガ大體勾引狀ヲ向フデ發付シテ、ソレヲ逮捕ノ爲ニコチラヘ携帯シテ、直グ抑ヘテ戴キタイカラト云フノデ、直グ連レテ歸ルト云フ場合ガ多イト思フノデス、ソレデ豫備的ニ電報デモ發シテ豫メ囑託ヲ爲シテ、内報ヲシテ置イテ、サウシテ向フカラ令狀ヲ持ッテ來ルト云フコトガ一番捷徑

デアリ、ソレガ的確デアコトデヤナイカ
ト、事務的ニ考ヘテ思ハレルノデスガ、殊
ニ内地ノ法律ニ依ッテ檢事ガ行動スル場合
ニ於テハ、ドウシテモ檢事ガ勾引狀ヲ發ス
ルト云フコトハ出来ナイノデアリマスカラ、
現行犯トカ何トカ云フ場合ハ例外デアリマ
スケレドモ、サウスルトドウシテモ令狀ノ
發付ヲシヨウトスルナラバ、今ノ刑事訴訟
法ノ手續ニ依ッテ、強制處分ノ請求ニ依ッテ
判事カラ勾引狀ヲ發シテ貫ハナケレバナラ
スト云フ手續ニナルノデスガ、ソナ急速
ナ事件ガ起ツタ場合ニ於テ、サウ云フ手續ヲ
執ルト云フコトハ、事件ノ内容等モ具ニ囑
託ヲ受ケタ内地ノ檢事ガ取調ベヲシナケレ
バ、事人權ニ關スル重大ナル問題デアリマ
シテ、滿洲國カラ囑託ガアツタカラ兎ニ角
捕ヘレバ宜イノダト云フ譯ニハ參ラナイ、
彼此レ考ヘルト、結局第一條ノ四ニ規定シ
テアル勾引狀ノ執行ダケノ共助ヲ爲ス、向
フカラ携帯シテ持ッテ來テ、ソレヲ内地ノ檢
事ガ執行シテヤルノダト云フ立前ダケデ十
分デアラウト思フノデスガ、イマ一應此點
ニ付テ伺ヒタイ

應ズルト云フ譯デハナイノデアリマシテ、
其勾引狀ノ發付ヲスルコトガ不當デア
ト云フ場合ニハ、第三條ニ依ッテ單ニ不當
ダト云フ理由ダケデ拒絕スルコトニナッテ
居ルノデアリマシテ、相當理由ノアルモノ
デナケレバ固ヨリ出サナイノデアリマスル
ガ、今モ申シマスル通り、向フデ發シタル
モノヲコナラデ執行ダケヲ引受ケルト云フ
コトニナリマスルト、非常ニ急グ場合被疑
者ガ轉々トシテ直チニ所在ヲ眩マスト云フ
ヤウナ場合ニハ、向フカラ人ガ來テ居ッ
タノデハ間ニ合ハヌノデアリマス、且又向フ
カラ令狀ヲ帶行スル場合ハ宜イノデアリマ
スルガ、ソレヲ愈、執行シテ、被疑者ヲ捕ヘ
テ本人ニ引渡シタ場合ニ、先方カラ帶行ヲ
シテ來タ滿洲國ノ警察官ガ、其令狀ト共ニ其
者ヲ受取ッテ歸ルト云フコトハ、日本ノ國家
内ニ於テ滿洲國ノ法權ノ一部ヲ執行サセル
コトニナルノデアリマスカラ、是ハ許シ得
ナイコトデアリマス、急速ヲ要スル場合ニ
ハヤハリ電報ニ依ッテ向フノ檢察官カラ日
本ノ檢事ニ勾引狀ノ發付ヲ請求スルト云フ
場合ヲ認メテ置ク必要ハ實際上アルト信ジ
マスルノデ、斯様ナ規定ヲ設ケタ次第デア
リマス

付ノ囑託ヲ受ケテ、不當ナ場合ハ其囑託
ニ應ジナイト云フ御話デアアルノデスガ、相
當ト認メラレタル場合ニ於テ、檢事ガ是ハ
裁判所ヘ更ニ請求ラシテ、裁判所ガ勾引狀
ヲ發付スル、而シテ其發付シタ場合ニ於テ
其令狀ヲドウ處分セラル、ノデアリマスガ、
其後ノ手續ヲ承リタイ

○松阪政府委員 檢事ガ此囑託ニ應ジマシ
テ勾引狀ヲ發付シマスル時ニハ、其勾引狀
ニハ、例ヘバ新京ノ地方法院檢察廳カラノ
囑託デアリマスルナラバ、被疑者ヲ新京地
方法院檢察廳ニ勾引ス、ト云フ勾引狀ヲ出
スノデアリマシテ、其勾引狀ヲ日本ノ檢事
ガ發付致シマシテ、之ヲ日本ノ警察官ニ交
付スル、日本ノ警察官ガ被疑者ヲ引致シテ
國境マデ連レテ行クノデアリマス、國境ニ
於テ滿洲國ノ警察官ニ身柄ト令狀ヲ引渡ス
ト云フ手續ヲ經ルノデアリマス

○原(夫)委員 是ハ固ヨリ滿洲ニ居住シテ
居タ日本人、若クハマア一時的ニ滯留シタ
日本人デモ向フノ管轄ニナルノデアリマセ
ウガ、ソレ等ト滿洲ニ居住若クハ滯在中犯
行ヲ共ニセザリシ者デモ、内地人ガ嫌疑ヲ
受ケタナラバ、此勾引狀ニ依ッテ滿洲國ヘ
勾引サレテ行クト云フコトニナルノデアリ
マセウカ

○松阪政府委員 私共固ヨリ通常ノ場合ニ
於テハ滿洲國內ニ於テ滿洲國ノ刑事罰則ニ
觸ル、犯罪ヲ犯ス者ガ日本内地ヘ逃ゲテ來
タ場合ニ、之ニ對シテ勾引狀ノ發付或ハ執
行ノ求ニ應ズルコトヲ目標ニハ致シテ居リ
マスガ、理論上ハ其場合ノミナラズ、日本
内地ニ居ル人間ガ日本内地ニ於テ滿洲國ノ
法律ニ觸レル犯罪ヲ企圖シ、或ハソレモ實
行スルト云フコトモアリ得ルデアリマセウ、
左様ナ場合ニハ、ソレガ相當ナ嫌疑ガアッ
テ、相當ナ勾引狀ヲ發付スルノガ至當デア
ルト認メマスルナラバ、ソレハ場合ニ依ッテ
ハ勾引狀ノ發付ニ應ズルノデアリマスガ、
原則ト致シマシテハ、私共ノ考ヘテ居リマ
スルノハ、外國トノ間ニ於キマシテハ、所
謂自國民ヲ引渡サザルコトガ國際法上ノ原
則デアリマス、隨テ日本人ガ内地ニ於テ滿
洲國ノ法律ヲ犯シタトシテモ、一般ノ場合
ニ直チニ之ニ應ズルト云フコトハ致サナイ
積リデアリマス、左様ナ場合ニハ、所謂不
相當ニ當ルモノト考ヘテ居ルノデアリマス、
不相當デアアルガ故ニ囑託ニハ應ジナイト云
フノデ、一般原則トシテノ引渡ハ、勾引狀
ノ發付ノ囑託ニハ應ジナイト云フ考ヲ持ッ
テ居リマス

○原(夫)委員 ドウモ此法律規定ヲ見ルト、

第二條ニハ「受託事項ノ實施ガ法律上許スベカラザルモノナルトキ又ハ公益ヲ害スル虞アルトキハ之ヲ爲サザルコトヲ得」ト斯

ヤウナ規定デナシニ、何故禁止ニセラレナカッタモノデアリマセウカ、ソレヲ御伺シタ

ラザルモノナルトキハ、之ニ對シテハ斷然ト拒否セラルベキコトガ當然デハナイカト

○長谷委員 今ノ御説明ニ基キマシテ、帝國軍人ニ對シ滿洲國ガ勾引狀ノ執行ヲ求メテ來タヤウナ場合、其場合ニ於テヤハリ末尾ノ規定カラ申上ゲルト云フト「之ヲ爲サ

ウナツテ居ルノデアリマスガ、法律上許スベカラザルモノハ爲サザルコトヲ得デハナク

○松阪政府委員 御説ノ通り法律上許スベカラザルモノナル時ニ於テハ、固ヨリ之ニ

拜見致シタノデアリマスガ、之ニ付テドウ云フ實例ガアルカ御聽カセ願ヒマシテ、次

ザルコトヲ得」ト云フテ自由裁量ノ餘地ヲ殘サレテ居ル、サウ云フ時ニハ寧ろ確然トシテ

シテ、是ハ全然第一義ニ於テ受託スルコトガ出來ナイト云フコトハ明ナコトデアルノ

應ゼナイノハ當然デアリマス、其場合ニ應ズルト云フコトハナイノデアリマスガ、公

ノ私達ノ質問ノ資料ニ供シタイト思ヒマスカラ、一ツ御聽カセ願ヒタイト思ッテ居リ

禁止規定ニナルノデハナイカト思フノデスガ、唯兩方トモ何レトモ自由裁量ニナリ得ル

デスガ、ソレト又公益ヲ害スル虞アリト云フ時ニ於テモ之ヲヤッテ貫ッテハイカス、是

テハ、多少ノ程度ノ問題モアリマスシ、總テ之ニ應ジナイト云フノハ餘リ嚴ニ失スル、

○松阪政府委員 「法律上許スベカラザルモノナルトキ」ト云フ場合ハ、色々アリマセウ

ノナルトキハ、選擇ヲシテ其場合ニ囑託ニ應ジテ宜イヤウナ事例ハアリ得ナイコト固

ハドウシテモ禁止規定デアルカラ出來ナイ譯デアリマスケレドモ、唯後「公益ヲ害

此場合ニ選擇ノ自由ヲ許ス必要ガアルノデアリマスガ、二ツ續ケテ書キマスル必要上

ガ、一二ノ例ヲ舉ゲマスナラバ、勾引狀ノ發付ニ付テ申シマス、滿洲國ノ檢察廳ヨ

リ日本ノ檢事ニ對シテ、日本ノ軍人ニ對シテノ勾引狀ノ發付ノ請求、或ハ其執行ノ囑託

於テモ認定問題デアリマスカラ、マア多少之ヲ爲サザルコトヲ得ト云フ規定モ宜イカ

モ知レナイガ、法律上許スベカラザル事柄ニ付テモ、之ヲ爲サザルコトヲ得ナドト云

ガアッタト云フヤウナ場合、刑事訴訟法上軍人ニ對シテハ普通裁判所ハ勾引權ガナイノ

マ、要スルニ「得」ト云フコトハ、公益ヲ害スル虞アルトキト云フ後段ノ方ニ於テ力

フヤウナ規定ハ、有リ得ベキコトデハナイト思フノデスガ、何レニシテモ裁量規定デ

存ジマス

○長谷委員 關聯シテ伺ヒタイノデアリマスガ、私ハ實ハ遅レバセニ參リマシテ、當

○長谷委員 ソレデハ此後段ノ公益ヲ害スル虞アルトキニ初メテ之ヲ爲サザルコトヲ

アル、公益ヲ害スル虞アリト云フ認定ヲ檢事ニ一任スルト云フコトニ付テハ、事柄ガ

委員會ノ速記録モマダ後ノ方ハ拜見致シテ居リマセヌガ、貴族院其他ノモノヲ拜見致

シマシテ、此第二條ニ多少疑義ガアルノデアリマス、此受託事項ト云フモノハ、ヤハ

リ日本ノ國內法デ以テ御判斷ニナツテ、御處置ニナルモノダト考ヘテ居リマスガ、其際

外ノコトナラ差支ナイガ、苟クモ重大ナル人權ノ問題ニ至ルト云フト、ヤハリ嚴正ニ

置ニナルモノダト考ヘテ居リマスガ、其際ニ於テ日本ノ國內法ニ於テ法律上許スベカ

ラ、結局是ハ「爲サザルコトヲ得」ナドト云フ

ル所ノ其裁量ハ、勿論檢事ニアルダラウト

區切リヲ付ケテ置カナイト、往々ニシテ公益ヲ害スルモノデアッテモ、認定違ヒデ間違

ト云フヤウナコトモアルコトデアリマスガ

場合ヲ豫想シテ居ルノデアリマス

ラ、結局是ハ「爲サザルコトヲ得」ナドト云フ

思ッテ居リマスガ、其相當ト認メルヤウナ場合モ、不相當ト認メルモノガアツ場合モ、適宜檢事ノ方デ裁量ヲスルコトニナルノカ、ソレトモ又宜イモノハ必ズヤツテ、惡イモノダケ除イテ共助シテヤルト云フ風ナコトニナルノデアリマスガ

○松阪政府委員 其點ニ付テハ條文ノ内容ニ依ッテ異ルノデアリマスガ、第二條ニ於キマシテ、所謂公益ヲ害スル虞アリト申シマシテモ、是ハ檢事ガ認定スル場合ト、裁判所ガ認定スル場合トアルノデアリマス、第一條ノ一號乃至六號ニ互ル全部ニ付テ、其實施ガ公益ヲ害スル虞アルトキト規定シテ居ルノデアリマスカラ、第一號乃至第六號中ニハ檢事ガ爲ス場合、ソレカラ判事ガ爲ス場合トアリマスノデ、必ズ檢事ノミノ認定ニ依ル譯デハナイノデアリマス、又第三條ノ勾引狀ノ發付及ビ執行ニ付テモ同様デアリマシテ、被疑者ニ對シテハ固ヨリ檢事ガ相當カ不相當カラ認定シテ勾引狀ノ發付又ハ其執行ノ實施ヲスルモノデアリマスガ、被告人ニ對スル勾引狀ノ發付又ハ執行ニ付キマシテハ、固ヨリ判事ガ其相當ナリヤ不相當ナリヤヲ判斷スルノデアリマス

○原(夫)委員 今御話ニナツタ第三條ノ點デアリマスガ、是ハ先程來問答ヲ致シ來ッテ

居ル勾引狀ノ發付ト勾引狀ノ執行ノ問題ニ關スル局限的ノ規定デアリマスガ、コ、デ不相當ト云フトキニハ其囑託ニ應ゼナイ、詰リ其通りニ實施ヲシナイト云フ規定ニナツテ居ルノデアリマスガ、大體此本法ノ精神カラ見レバ、與フベクンバ共助關係ニ依ッテヤッテヤルノダト云フ立前デアアル所ヲ、唯斯ウ云フ漠然タル不相當ト云フヤウナコトハ、非常ニ文字ガ廣ク書イテアツテ、之ヲ當該檢事ガ判斷スルニハ色々其他ノ知識ヲ集メルコトト思フノデアリマスガ、一體是ハドウモ不相當ダト云フ文字ガ、例ヘバドウ云フ場合カ、少シデモ此處ヘ何々等ノ如キ其他不相當ノ場合ト云フコトガアレバ、能ク分ルノデスケレドモ、不相當ト云フノハ餘リ廣イ文字デスカラ、ドウ云フ場合ニハ此不相當ト云フ場合ニ當ルカ、即チ相當ト不相當ノ境界ト云フモノガ、是ダケデハ分ラナイノデスカラ、ドウ云フ積リデスウ云フ文字ヲ使ハレタノデアリマセウカ

○松阪政府委員 不相當ト申シマスレバ、大體常識的ニ、或ハ社會通念的ニ分リ得ルト存ジマスガ、幾分漠タル點ハ御意見ノ通リアルカモ知レマセヌガ、寧ロ其點ガ此條文ノ實ハ私共妙味デハナイカト思ッテ居ルノデアリマス、是ハ拒絕シ得ル場合デアリ

マスカラ、餘リニ嚴格ニ、餘リニ正確ニ條件ヲ規定致シマシテ、其以外ニハ一步モ踏入レナイト云フコトニナリマス、非常ナ不便ヲ感ジマスノデ、兎ニ角外國カラノ囑託デアリマスカラ、或ル場合ニハ相當裕リノ出來ルヤウニ解釋シ得ル文字ヲ用ヒル必要ガアルト云フコトカラ、特ニ斯様ニ致シタ次第デアリマス、私共考ヘテ居リマスノハ、先方カラ囑託ガアツタ其令狀ヲ發付スル相手ガ、日本ニ於ケル社會的地位ガ非常ニ高イ人デアアル、或ハ又被疑事實デアアル犯罪事實ガ非常ニ輕微デアツテ、固ヨリ刑ニナラス事案、或ハ向フニ行ツタコトノナイ日本人ニ對シテ突然勾引狀ノ囑託ヲスル、左様ナ場合ニハ何レモ不相當ト云フ場合ニ當ルモノト考ヘテ居ルノデアリマス

○原(夫)委員 牽聯問題デスカラ、勾引狀ノ發付ニ關シテハ貴族院ノ修正第一項目加ッテ、司法當局ガ御賛成ニナツテ居ルノデスケレドモ、勾引狀ノ執行ノ場合ニ一ツ疑問ノ起ルノハ、向フノ檢察廳、滿洲デハ檢事ノ勾引狀ヲ發スルコトガ出來ルト云フヤウナ場合ニ、其檢事ノ發シタ合法的ナ勾引狀ヲ、ドウカ日本ヘ執行シテ貫ヒタイト云ウテ送ッテ來ル、其場合ニ於テ内地デハ檢事ニハ勾引狀發付ノ權限ハナイノダカラ、ドウシ

デモ正當ノ權限アル判事デナケレバイカヌ、斯ウ云フコトガ刑事訴訟法ニ規定シテアル、所ガ滿洲カラ檢事ノ發付シタ勾引狀ヲ執行シテ貫ヒタイト言ツタ場合ニ於テハ、ソレハ一體執行ノ囑託ヲ受ケ得ルモノデアアルカドウカ、又拒絕スルト云フコトデアアルナラバ、ソレハドウノ條項ニ依ッテ拒絕スルカ、其點ヲ明ニシテ戴キタイ

○松阪政府委員 滿洲國ノ檢察官ガ發付致シマシタ勾引狀ニ付キマシテハ、其勾引狀ノ發付ノ條件ガ、滿洲國ノ法律ニ依ッテ適法デアル以上ハ、其執行ノ囑託ヲ受ケタ日本ノ檢事ハソレヲ執行スルノデアリマス、假令日本ノ檢事ナラバ左様ナ勾引狀ヲ發付スル權限ガナイ場合デモ、其執行ハ囑託ガアル以上爲サナケレバナラスト存ジマス、若シソレヲ拒ムト云フコトニナリマス、滿洲ニハ御承知ノ通り豫審ノ制度ハナイノデアリマス、日本ノ豫審判事ノ發シタル勾引狀ノ執行ヲ滿洲國ヘ囑託シタ場合ニハ、滿洲國デハ豫審判事ノ勾引狀ノ發付ハナイノデアリマスカラ、ソシナモノハ執行ノ囑託ニ應ジラレナイト云ツテ、拒絕サレル虞モアルノデアリマス、左様デアリマスカラ、其國ノ法律ニ依ッテ適法ニ發セラレタ以上ハ、之ヲ適法ナルモノト認メテ、執行ハオ

互ニ應ズルト云フ立前ニナッテ居リマス

○原夫委員 ドウモソレハ極メテ重大ナ關係デ、從來内地共助法ニ漠然タル規定ノ

アル爲ニ、令狀ノ執行ト云フコトノ規定ノ爲ニ、例ヘバ朝鮮總督府デハ檢事ニ勾引狀

發付權ヲ認メテ居ル、其檢事ノ令狀ヲ内地ヘ持ッテ來テ、共助シテ貰ヒタイト云フ場合

ニ於テ、皆其執行ヲ共助致シテ居ル、ソレハ多年ノ慣例ダト云ウテ、内地ノ檢事局デ

ハサウ云フ風ニヤッテ居ル、ソレハ全ク私ハ不都合ナ解釋デアルト思フノハ、マア事柄

ニ依ルケレドモ、被告人ノ立場ニモ依ルケレドモ、先程申上ゲタヤウナ朝鮮ナラ朝

鮮デ犯シタル事件ノ被告人ガ日本人デアッテ、ソレガ朝鮮ニ居住シ、在留シテ居ッ

ト云フ者ナラバ、ソレハ内地ニ逃亡シテ居ッテモ、勾引狀ノ執行ハ出來ルカモ知レ

ナイガ、ソレト共犯關係ニアル日本人ヲ新ニ檢舉ショウト云フ場合ニ於テハ、其

共犯人タル日本人ハ朝鮮ニ行カナイ、ズツト内地ニ居ッテ内地ノ法律ニ依テ彼等ハ其

身分ヲ確保セラレテ居ル、即チ内地ノ法律ニ依ルニアラズンバ逮捕監禁ハ出來

イゾト云フコトガ憲法デ保障致シテアル、其保障ヲシテアルカラ、彼ハ安ンジテ日本

法律ノ下ニ枕ヲ高ウシテ居ル、然ルニ朝鮮

ノ變ッテ法律ニ依ッテ、内地ノ憲法保障ガ蹂

躪セララル、ヤウナ關係ニ相成ッテ居ル、斯ウ云フ矛盾ヲ來スコトヲ考ヘマシタナラバ、

此タビノ本法ニ依ッテモ、刑事局長ノ御答ニ依ルト云フト、私ガ先程申上ゲマシタ如ク、

滿洲ノ或ル事件ニ内地人ガ共犯關係ノ嫌疑ガ起ッタト云フ場合ニ於テ、滿洲カラ其日本

人ヲ引捕ヘテ來テ吳レロト云フ勾引狀ヲ檢事ガ發付シタトスルナラバ、ソレヲ内地デ

ハ當然内地ノ法律ニ依ッテハ、ソレヲ執行シ得ベカラザルモノデアアル、内地デハ特ニ人

權ニ關スルコトデアアルカラ、鄭重ニ刑事訴訟法デ規定ヲ致シテ、苟モ人身ヲ拘束スル

事柄ニ付テハ、檢事ハ何等ノ權力ハナイノダト云フ保障規定ガアル、サウスルト滿洲

ノ、他國ノ法律ニ依ッテ我國ノ身分保障ガ蹂躪セララル、ノ結果ニ陥ルト云フトガ起リ得

ルノデスガ、刑事局長ハ、或ハ東京地方裁判所檢事局アタリデ行ヒ來ッテ居ル慣行、即

チ内地共助法ノ實際ノ運行ガ頭ニアッテ御話ニナルコトと思フノデスケレドモ、朝

鮮、臺灣、關東州トカ云フモノハ、内地ノ關係デ、我ガ憲法ガ此領土ニ行ハレテ居

ル關係モアルノデスカラ、多少ハ恕スベキモノガアルトシテモ、滿洲國ハ兎ニ角是

ハ我國ガ内外ニ聲明シテ居ル如ク、純然タ

ル獨立國デアアル、併シ日滿議定書ニ依ッテ、或ル特殊ナル國交關係等ヲ定メテ居ル、又

段々實際ガ緊密ニナッテ、日滿一如、或ハ日滿經濟「ブロック」等ノ事柄モアルノデアリマ

スケレドモ、ドウモ獨立國トシテノ國ト國トノ關係ニ於テ、只今刑事局長ノ御話ノヤウ

ナ、内地人ガ安ンジテ我ガ國內法ニ依據致シテ居ルモノヲ

〔委員長退席、内藤委員長代理著席〕此共助規定ニ依ッテ奪ヒ去ラル、ト云フヤ

ウナコトガアッテハ、甚ダ由々シイ問題デアルト思フノデアリマスルガ、其點ハ如何デア

アリマセウカ

○松阪政府委員 内地ト外地トノ司法事務ノ共助ニ付テハ洵ニ御説ノ通りデアリマス、

法域ヲ異ニスル内外地間ニ於キマシテ、又訴訟手續モ違ッテ居ル點ガアルノデアリマス

ルガ、外地ノ警察官又ハ檢事ノ發シタル勾引狀ヲ、内地ノ檢事ガ囑託ヲ受ケテ執行ス

ル場合ガアリマシテ、其場合ニハ囑託ヲシタル外地ノ法律ニ於テ適法デアル以上ハ、

内地ノ檢事ハ執行ヲ無條件ニ受諾シナケレバナラス、其執行ヲシナケレバナラス、其點

ハ解釋ガ一致シテ居ル點デ、只今原委員ノ御述ニナッタ通りデアリマス、而モ司法事務

共助法ハ如何ナル場合デモ適法ニ出サレタ

ル令狀デアアル以上ハ、其囑託ヲ受ケタ内地

ノ檢事ハ之ヲ拒絕シ得ル場合ガナイ、所ガ滿洲國ト我國トハ緊密不可分ノ關係ニハア

リマスガ、兎ニ角外國ト外國ト云フ間デアリマスカラ、其點ニ付キマシテ只今御述ニ

ナリマシタヤウナ心配ヲ致シマシタ結果、私共ハ司法事務共助法ニナイ規定ヲ此日滿

司法事務共助法ノ第三條ニ持ッテ行キマシテ、「勾引狀ノ發付又ハ執行ノ實施ガ不相

當ナルトキハ之ヲ爲サザルコトヲ得」ト云フ一項ヲ加ヘマシテ、内容ニ付テ審査ヲス

ル權限ヲ與ヘルコトニ致シタルデアリマス、固ヨリ日本ノ臣民ノ身體ノ自由ハ憲法ニ

依ッテ保障スル所デアリマシテ、法律ニ依ラナケレバ之ニ對シテ制限ヲ加ヘルコトヲ得

ナイノデアリマス、隨テ滿洲國ノ法律ニ依ッテ適法ニ發セラレタ勾引狀ト雖モ、固ヨリ

其モノガ直チニ内地ニ於テ效力ヲ有スル筈ハナイノデアリマシテ、ソレニ適法ナル効

力ヲ與ヘルノガ、即チ日滿司法事務共助法ナル法律デアリマシテ、私共ハ此法律ニ依ッ

テ實施スル以上ハ、令狀ノ發付竝ニ執行ニ付テオ五ニ囑託ヲ爲シ合フト云フコトガ不

都合ナ行爲ガナイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○内藤委員長代理 原君ニ申上ゲマスガ、外務省ノ方ガ御忙シイ所ヲ御見エニナッテ

居リマスカラ、司法省ノ方ハ何時マデモ居ラレテ宜イノデアリマスガ、外務省ノ方ニ對シテ何カ御聽シタイト云フコトデアリマスカラ、先ニ御變更ニナツタラ如何デアリマスカ

○原(夫)委員 外務大臣ハ御出席出來マセスカ

○内藤委員長代理 外務大臣ハ重要ナ會議ガアツテ登院サレテ居ラスサウデアリマス

○原(夫)委員 ソレデハ一寸今ノ結末ダケヲ付ケテ置キマス、今ノ御話ハ斯ウ承ツテ宜シイノデアリマスガ、内外地司法共助法ノ規定ニ依ルト、只今御尋致シタ令狀ノ執行ニ付テハ何等ノ規定ガナイカラ、朝鮮ナラ朝鮮デ合法的ニ出來タ令狀デアレバ、之ヲ拒否スルコトガ出來ナイ、其令狀ヲ持ッテ來タ場合ニ於テハ、當然我が檢察當局ハ之ヲ執行シテヤラナケレバナラス、斯ウ云フ御答ノヤウデアッタノデアリマスガ、先ヅ其點ヲ一ツ確メテ置キタイノデスガ、其通りデスカ

○松阪政府委員 其通りデアリマス

○原(夫)委員 此朝鮮トノ問題ハ、私ハ刑事局長ノ御答トハ大變ニ違ッテ見解ヲ持ツモノデアリマスガ、ソレハ後ハ殘シマセウ、ソレカラ次ニ日滿ノ共助ノ令狀問題ニ付テ

ハ、先程ノ御話ニ依ルト、朝鮮トノ關係ノ令狀執行囑託ノ關係等ニ鑑ミテモ、日滿關係ニ於テハ、此點ニ裕リヲ取ラナケレバナラスノデアルカラ、ソコデ朝鮮デ我が内地ノ法律ト違ッテ、檢事ガ令狀ヲ發スルコトガ出來ル、勾引狀ヲ發スルコトガ出來ルト云フ立前デ發布シテ、ソシテ是ガ執行ヲ後ニ囑託シタト云フ場合ニ於テハ、原則トシテハヤハリ其勾引狀ヲ執行シテヤラナケレバナラスノデアル、併ナガラ時ニ依ッテハヤラナイコトガ出來ルヤウニシテアルノダ、斯ウ云フ御答デアッタヤウニ思フノデスガ、ソレハ詰リ法律上ノ立前カラ言フト、ヤハリ日滿關係ニ於テモ、内外地共通法ノ規定ノ法律ト同様ニ、其點ハ何處マデモ解釋セラレテ居ルヤウニ思フノデスガ、若シサウ云フ解釋デアルトスルナラバ、其法律問題トハ別ニ、其令狀ヲ執行セザル理由ハ、不相當ナ場合トカ、或ハ公益ヲ害スル場合トカ云フヤウナ理由ニ基クモノデアッテ、根本ノ私ノ御尋致シテ居ルガ如キ、内地法ト違ッテ居ル立場ニ於テ發令セラレタル令狀ハ、勾引狀ハ、ドウシテモ内地デハ執行出來ナイト云フ、私ハ其立場ニ於テ之ヲ拒否スベキモノデアアル、斯ウ御尋致シテ居ルノデアリマス、其點ダケニ限ッテ御尋致シテ居ルノデス

○松阪政府委員 私ノ説明ガ或ハ足りナカッタ點ガアルノカモ存ジマセスガ、私ノ申上ダケ趣旨ハ、内外地間ノ共助ヲ規定致シテ居リマスル司法事務ノ共助法ノ立前モ、勾引狀ノ發付執行ニ付キマシテハ、日滿司法事務共助法ノ立前モ理論ニ於テハ同一デアアルノデアリマス、繰返シテ申シマスルガ、一般司法事務共助上、内外地間ノ司法事務共助法ニ於キマシテハ、朝鮮ノ檢事ガ朝鮮ノ訴訟手續ニ依リマシテ適法ニ發シタル勾引狀ヲ、日本内地デ執行ノ囑託ガアリマスレバ、ソレハ無條件ニ日本ノ檢事ハ其ノ執行ニ應ズルノデアリマス、假令其勾引狀發付ノ權限ガ日本ノ刑事訴訟法ニ於テ、日本ノ檢事ニ與ヘラレテ居ラナクテモ、外地ニ於テ是ガ適法ニ出サレタモノデアル以上ハ、之ニ應ズルノデアリマス、日滿間ニ於テモ同様デアリマシテ、滿洲國ノ檢察官ガ滿洲國ノ法律ニ依ッテ適法ニ發付シタル勾引狀ヲ、日本ニ執行ノ囑託ガアリマシタル場合ハ、日本ノ檢事ハソレニ應ズルノデアリマス、應ズル場合ニ、日滿司法事務共助法ニ於テハ、其内容ガ不相當ナル場合ニハ、第三條ニ於テ拒絕シ得ル場合ヲ設ケテ居ルノデアリマス、此點ガ内外地間ノ司法事務共助法ト相違スル點デアリマスガ、發生シマ

シタル勾引狀ノ效力其モノニ付テハ理論ハ全ク同一デアリマス

○原(夫)委員 ソレナラバ外務當局ニ御尋致シタイトデアリマスガ、外務當局ハ大體今日議題トナツテ居ル政府提案ノ日滿司法事務共助法ト云フ此法律案ニ付テ、豫メ御協議ニナツタコトガアリヤ否ヤ、又此共助法ノ大體ノ内容ヲ御承知ニナツテ居ルカドウカト云フコトヲ御尋致シマス

○三谷條約局長 只今ノ原サンノ御質問ニ對シテ御答申上ゲマス、只今此方ノ委員會ニ於テ審議セラレテ居リマス日滿司法事務共助ニ關スル法律案ニ付キマシテハ、提案ニ當リマシテ外務省ニ御協議ガゴザイマシテ、其大體ノコトハ吾々モ承知致シテ居ル次第デゴザイマス

○原(夫)委員 日滿議定書デアッタと思フノデアリマスガ、大體ニ於テ滿洲國ハ獨立國デアッテ、新ニ生誕セラレタル新國家デアルト云フコトヲ内外ニ聲明セラレテ、日本ハ是ト特殊ナル關係ニ於テ日滿議定書ノ協定セラレテ、一切國際法ノ關係ニ基イテ外國トノ國際關係ヲ處理スルモノデアルト云フコトノ立前デ進ンデ參ッテ居ルヤウデアリマス、大體其立前カラ申スト、多年ノ、國際法、國際法ト云フカドウカ——大體國

際間ノ不文律ナ慣行法ト申シマセウカ、其精神ニ依リマス、外國ニ對シテハ自國人ヲ引渡サナイ、犯罪ノ嫌疑若クハ犯罪ノ判決ガアツテモ大體引渡サナイ

〔内藤委員長代理退席、委員長著席〕

但シ政治犯ハ絕對ニ引渡サレナイノデアルガ、普通ノ犯罪ノ中デ、罪種ヲ選シデ、例ヘバ日米間ノ犯罪人引渡條約ノ如ク、懲役若クハ禁錮ノ一年以上ノモノト云フヤウナ界限ノ下ニ、要求ニ依ツテ引渡スコトガ出來ルト云フ條約ヲ致シ來ッテ居ルノデアリマス、又日露間ノ犯罪人引渡條約ニ於テモ、ヤハリ同様ナ關係ニ結ンデアル、然ル所只今御覽ノ此日滿ノ司法事務共助法ニ依リマスト云フト、彼地ニ於テ犯罪ヲ犯シタル日本人ガ逃亡ヲ致シテ内地ニ歸ッテ來タ、或ハソレ以外ニ於テ滿洲ニハ行カナイデモ、内地人ガ滿洲人若クハ日本人ト内地ニ於テ犯罪ヲ共謀シタト云フヤウナ場合ニ於テモ、滿洲國ハ引渡ヲ求ムルコトガ出來ル、而シテ日本ハ之ニ應ズル、斯ウ云フ立前ノ規定ガアルノデアリマスルガ、是ハ全ク日滿間ノ條約ヲ以テ斯ウ云フコトヲ規定スルト云フコトガ、少クトモ犯罪人引渡ノ關係ニ於テハ、其立前ガ日滿議定書カラ見テ、當然ナヤリ口ヂヤナイカ、現ニ本案ヲ内地法トシ

テ制定セラレテモ、滿洲國デハドウ云フ共助法ヲ發布スルノデアルカ、一向日本ニハ分ラナイ、ソレカラ又滿洲國デハドンナ刑事訴訟手續デ、ドンナ規定ニ基イテ令狀ヲ發付スルノデアルカ、犯罪人トシテ取扱フノデアルカト云フヤウナコトニ付テハ、總テ分ラナイ立前ニ於テ、茲ニ内地法トシテ共助法ガ片面的ニ發布ニ相成ラントシテ居ル、是ハ少クトモ犯罪人ノ引渡ニ關シテハ、ドウシテモ事憲法ノ保障スル所ノ人種ニ關係ヲ持ツ所ノモノデアツテ、外國、殊ニ獨立國ニ對シテ其犯罪人ノ引渡ヲスルコトデアルカラ、ドウシテモ是ハ條約ニ依ツテ先ヅ取極メガアツテ、而シテソレノ運用ニ關シテ、内地法ヲ制定スルト云フ立前ニ出ナケレバナラスト思フノデアリマスガ、外務省ノ見解ハドウデアリマスカ、ドウ云フ御積リデ此日滿間ノ犯罪人ノ引渡ヲ爲スト云フ規定ノ此法案ニ對シテ、御贊同ヲ與ヘラレタノデアリマセウカ、ソレヲ御伺致シタイト思ヒマス

○三谷條約局長 只今ノ御質問ニ御答致シマス、只今御述ニナリマシタ通り、犯罪人ノ引渡ニ關シマシテハ國際慣例ト申シマスカ、何ト申シマスカ、犯罪人引渡條約ト云フモノヲ結びマシテ、或種ノ犯罪ハ之ヲ

引渡スト云フ約束ヲシテ居ル場合ガ多イノデゴザイマシテ、我國モ日米間ノ如キニ於キマシテハ、サウ云フ條約ヲ結ンデ居リマス、併シ此犯罪人引渡條約ハ、只今御話ガゴザイマシタ通りニ、殆ド例外ナク政治犯ハ之ヲ除外シテ居リマスルシ、其他ノ犯罪モ或ル種類ノモノニ付テノミ引渡ヲオ互ニ約束ヲシテ居ルノデゴザイマス、然ルニ吾國ト滿洲國トノ關係ハ、日滿議定書ニ於テ約束シテアリマス通り、緊密不可分ノ特殊關係ヲ持ッテ居リマスルノデ、我國ト滿洲國トニ於キマシテハ、犯罪人引渡ニ付キマシテモ、一般ノ國際間ニ行ハレテ居ルヤウナ犯罪人引渡條約ニ依ルコトハ適當デナイ、我國ト滿洲國ノ間ニ於テハ、尙ホ更ニモツト強度ノ共助ヲ此點ニ於テモ致ス必要ガアル、斯ウ考ヘラレマスル所カラ、結局只今御審議ヲ願ッテ居ルヤウナ法律ニ據ルコトガ適當デアル、外務省ニ於テモ斯ウ考ヘタ次第デゴザイマス、尙ホ滿洲國ニ於キマシテモ、此法律ト同様ノ内容ノ法律ガ制定セラレル次第デゴザイマシテ、日滿兩國間ニハ特別ナ密接ナル關係ガアリマスノデ、此點ニ付キマシテモ十分ナ連絡ガ取ラレテ居ル、更ニ此法律發布ニ關シテノミナラズ、其法律ノ施行ニ付テモ、我國ト滿洲國トノ

特殊ナ關係ニ基キマシテ、其間ニ何等オ互ニ遺憾ノナイヤウニスルコトガ出來マスルヤウナ關係ニアリマスルノデ、却テ斯ウ云フ法律ニ依リマスルコトガ目的ヲ十分ニ達スル所以デアル、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○原(夫)委員 私ノ御尋致シタ所ハ、只今議題ニナッテ居ル法案ハ所謂司法事務ニ關シテ細カイ部分モ澤山アル、此法律ガ出レバ非常ニ兩國間ノ爲ニ仕合せト存ズルモノデアリマス、併シ唯私ガ一點ダケ外務當局ニ確メテ置キタイト云フ點ハ、犯罪人引渡ノ關係ダケデアアル、局長ノ所謂色々ナ綿密ナ規定ヲ爲スノハ、兩國ノ親善ニ鑑ミテ必要ナコトデアアル、是ハ私モ同感デアアル、唯其犯罪人引渡ノ問題ニ至リマス、是ハ世界各國多年ノ國際法ノ慣例ニ相成ッテ居ッテ、獨立國家間ニ犯罪人ノ引渡ヲ要求シ、之ヲ受諾スルト云フ事柄ニ付テハ、是ハ兩國ガ大體ニ於テ協定ヲ爲シテ、兩國ノ協定ノ上デ其取交シヲナシタコトニ依ツテ、之ノ實行ニ關シテノ巨細ナ手續ハ兩國デ法律ヲ互ニ發布スルト云フト云フコトガ本筋デアツテ、斯クナレバ兩國ノ親善モ益、敦厚ヲ加ヘル元ニナルカラ結構デアアルガ、私ノ吳レ／＼モ申ス所ハ、外務省ノ立場ニ於テハ各修好關

係ヲ結ンデ居ル諸外國トノ間ニ、條約ヲ協
定スベキコトハ、條約ヲ協定ヲ爲スコトラ
獎メナケレバナライ、外務省ハ重大ナ責
任ガアルデハナイカ、此點デアリマス、言
フ迄モナク條約事項ハ憲法ニ定メタル大
權事項デア、其大權事項ヲ外務省デ御信
任ヲ得テ、事務ヲ御預リニ相成テ居ル、サ
ウシテ見ルト條約デ爲スベキ事柄ヲ爲サナ
イデ、日滿ノ修好狀態ニ鑑ミテ便宜デア
ルト云フテ、條約ヲ避ケテ、法律ニ依ッテ、兩
國ガ同ジヤウナ法律ヲ作ルト云フコトヲ仰
シヤルケレドモ、滿洲國ノ法律ハ日本ノ國
ニ對シテ發布スルコトハ出來ナイ、兩國ガ
獨立シテ互ニ親密ニヤッテ行クノニハ、ヤハ
リ定石ニ則ッテ、外務省ガ此犯罪人引渡ノ重
大ナル事柄ニ付テハ、多年ノ慣行ニ從ッテ條
約デ之ヲ定メテ、ソレデ此只今議題トナッテ
居ルヤウナ事務ノ實施ニ關スル法律ヲ制定
セシムルト云フコトノ運ビニ至ラナケレバ
ナラヌト思フノデアリマシテ、他ノ方面カ
ラ見マシタナラバ、コンナヤリ方ト云フモ
ノハ、外務省ガ條約權ヲ等閑視シテ、結局
憲法ニ規定ラシテ居ル大權事項ト云フモノ
ヲ輔翼シ奉ルコトガ出來ナイ、シナイ、サ
ウシテ條約事項ヲ日滿間ニ限ッテ此法律ニ
讓ルト云フコトニ致シタト云フコトハ、或

ル意味カラ言ヘバ、外務省ノ是ハ私共率直
ニ申シタナラバ怠リデハナイカ、斯ウ云フ
コトモ考ヘルノデアリマス、滿洲國トノ間
ニ協約セラレタル所ノ事柄ハ、隨分交通關
係其他色々アリマス、此犯罪人引渡條約ニ
限ッテ、此重大ナル事柄ガ、國民ノ人權ニ關シ
テ憲法ノ保障シテアル所ノ事柄ニ付テ、我
國トシテハ日米、日露ノ間ニ極メテ詳細ナ
ル條約ヲ此點ニ關シテ結ンデ居ル先例モア
ルノデアリマス、滿洲國トノ親密關係ヲ益、
敦厚ナラシメンガ爲ニハ、ヤハリ定石ヲ踏
ンデ、條約ヲ結ンデ置イテ、此法律規定ヲ
オ互ニ發布シテ、オ互ニ手ヲ携ヘテ東洋ノ
平和ニ貢獻スルト云フ立前デナケレバナラ
ヌト思フノデアリマスガ、是ハ事柄ガ若シ
條約事項デアルトスルナラバ、樞密院ニモ
關係ヲ致シ、又此法律審議ノ上ニ於キマシ
テモ、條約事項ヲ法律ガ、條約ナキニ法律
デ片面的ニ規定スルト云フコトハ、極メテ
重大ナル關係ガアルト私ハ考ヘマスノデ、外
務當局ノ責任アル御答辯ヲ得タイト思ッテ、
外務大臣ニ出席ヲ願ッタノデアリマスケレ
ドモ、條約局長ハ其元締ヲヤッテオ居デニナ
ルノデアリマスカラ、外務省全體ヲ代表セ
ラレテ、先程來御述ニナツタ所ニ依ルト云フ
ト、ドウモ私ノ腑ニ落ちナイ、更ニ此點ニ

付テ一段ノ明カナル御答辯ヲ得タイノデア
リマス

○三谷條約局長 只今御質問ニナリマシタ
點ハ、洵ニ御尤ナ點デゴザイマスガ、先程
モ申上ゲマシタヤウニ、日本ト滿洲トノ間
ノ關係ハ、種々ノ點ニ於テ外ノ國ト我國
トノ關係トハ異ッテ居ルノデアリマシテ、例
ヘバ日米間ノ犯罪人引渡條約ニ依リマスレ
バ、政治犯ハ一切引渡サナイコトニナッテ
居ルノデアリマスケレドモ、日本ト滿洲國
トノ關係ニ於キマシテハ、サウ云フ風ニハ
行カナイト存ズルノデアリマス、又日本ト
滿洲國間ノ種々ナル事項ニ關シマシテ、
從來條約モ段々出來テ居リマスルガ、此間
題ニ付キマシテハ外務省ニ於キマシテモ、
司法當局ト十分御相談致シマシテ、諸般ノ
點ニ付テ考究ヲ盡シマシタ結果、兩國間ガ
特別ノ關係ニアッテ、滿洲國ニ於テ行ハレ
コトハ、事實上日本ノ内面指導權ニ依リマ
シテ、十分日本ノ意思ト合致スルヤウナ風
ニ運用ガ出來ル事實ニアリマシテ、又先程
モ申上ゲマシタヤウニ、此犯罪關係ナドニ
於キマシテモ、他ノ國トノ間ノヤウナ風ニ
規定スルコトガ出來ナイ、隨テ今迄諸國間
ニ例ヲ見テ居リマスヤウナ種類ノ犯罪人引
渡條約デハ、日滿間ニ其目的ヲ達シナイト

云フヤウナコトモ能ク考慮致シマシテ、條
約ニ依ラズシテ、双方間ニ、實際上日本ガ
滿洲ニ持つテ居リマスル特別ノ關係ニ基キ
マシテ、實際上其目的ヲ達スルニ足ルヤウ
ナ法律ヲ施行シテ行クト云フコトガ、適當
デアルト云フ結論ニ達シタノデゴザイマス、
只今憲法上ノ條約大權ニ關スル御話モ出マ
シタガ、吾々ノ解釋ト致シマシテハ、犯罪
人引渡、其他司法共助ノ問題ハ必ズ條約事
項デヤルト云フ風ニモ考ヘマセヌ、如何ナ
ル事項ガ條約ニ依ッテ規定セラルベキカト
云フコトハ概括的ニハ申サレナイノデ、
一ツノ場合ニ於テ決定セラルベキモノ
ト考ヘテ居ル次第デゴザイマス、大體只今ノ
御質問ニ對スル答トシテ以上申上ゲテ置キ
マス

○原(夫)委員 ドウモ一寸分ラヌデスガ、
結局滿洲ト日本トノ特別ナル關係上、條約
ニ依ッテ犯罪人引渡ノ取極ヲ爲スヨリカ、只
今提案ニナッテ居ルヤウナ法律ニ依ッテ規定
ヲ致シタ方ガ宜シイト云フコトニ、關係官
廳ノ議ガ決シテ、ソレデ條約ヲ締結スルコ
トヲ避ケタノデア、斯ウ云フコトデアリ
マスカ

○三谷條約局長 左様デゴザイマス
○原(夫)委員 ソレデハ一向受取レナイノ

デアリマス、其條約ヲドウシテ避ケラレル
ノデアリマスカ、私ノ言フノハ、犯罪人引
渡ト云フモノハ、是ハ國家存立ノ上ニ於テ
極メテ重大ナ問題デアル、各國モ亦是マデ
國際法關係ニ於テモ、是ハ非常ニ重ク取
扱ッテ來テ居ル、是モ當然ナコトデアル、領
事裁判制度ナドモ、自國民保護ノ爲ニア、
云フ特例ヲ設ケテ居ルノデ、全ク帝國ハ我
ガ國民ヲ保護スル立場カラ、此點ニ向ッテハ
非常ナ注意ヲ爲シ來ッテ居ル、サウ云フ立場
デアルノデスガ、只今ノ法律ニ依ルト、滿
洲國ノ令狀一本デ、内地ニ居ッテ我ガ國民ガ、
向フデ共犯ヲ爲シタト云フヤウナ疑デ、嫌疑
ガ掛カッタ場合ニモ引張ラレテ行ク、サウ云
フ規定デアル、サウ云フ事柄ニ付テハ兩國
ガシツクリ條約ヲ結ンデ、公々然ト條約ヲ結
ンデ、サウシテ今後兩國間ニ於テハ、互ニ
大使モ派遣シ合ッテ居ルコトデアル、互ニ又
色々ナ事柄ニ付テ條約モ結ビ來ッテ居ルコ
トデアルカラ、罪人引渡ノ重大ナ問題ダケ
ニ付テモ、ドウカ兩國間ニ協定ヲシヨウヂ
ヤナイカト云ッテ、表向ノ協定ヲ爲シテ、其
巨細ノ手續法ニ至ッテハ、兩國ハ各自ニ法
律ヲ出シテ援ケ合フ、是ガ結局外交ニ於テ
モ定石デアリ、又司法事務ヲ執ル上ニ於テ
モ必要ナ定石デアルト思フノデアリマス、

先程仰シヤッタノデスガ、亞米利加或ハ露西
亞トノ犯罪人引渡條約ノ規定デハ工合ガ惡
イカラ、斯ウ云フ風ニシタノデアアル、斯ウ言
ハレルノデアリマスケレドモ、其通りニナ
サイト云フノデアアリマセヌ、引渡條約ニ
於テドンナモノデモ規定ハ出來ル譯ナンデ
アリマスカラ、之ヲドウシテセラレナイノ
デアアルカ、斯ウ御尋致シテ居ル、而シテ條約
ト云フモノニ付テ色々御説明ヲ承ッタノデ
アリマスカ、條約ハ事柄デ決ッテ居ルノデハ
ナイ、必ズ條約デ結バナケレバナライ事
柄トシテ、何々ト云フ風ニハ決ッテ居ルモ
ノデハナイ、斯ウ云フ御話デアリマスカ、
犯罪人引渡ノ問題ニ關シテハ、是ハ國際間
ニハズツトモウ古クカラ傳ッテ居ル、殆ド不
文律ノヤウナモノデアッテ、何ニシテモ之ニ
對シテ條約デ結バナイデ、法律デヤッテモ宜
シイト云フ國際慣例ト云フモノハ、未ダ曾
テナイト思フノデアリマス、若シモ今後諸
外國ト斯ウ云フ問題ガ起ッタ場合ニ於テモ、
私ハ必ズ條約デヤラレルコトト信ジテ疑ヒ
マセヌ、唯局長ノ言ハレルヤウニ、滿洲國
ノ關係ハ特別ナ關係デアアル、是ハ誰モ承知
致シテ居ル、其特別ナ關係デアアルガ故ニ、日
滿議定書ニ於テモ國防ノ關係、其他色々今
日ニ至ルマデ御世話ヲ國ヲ擧ゲテヤッテ居

ル、ソレハ明デアアルガ、ソレデアアルダケニ
定石ダケハ打ッテ置カナケレバイカヌ、重大
ナ事柄ニ付テハ、兩國ガ協約ニ基イテヤラ
ナケレバナラス、ソレガ結局我國ノ外交ト
シテノ重大ナル仕事デハナイカト思フノデ
アリマスカ、ハッキリ此點ヲ御答願ッテ置キ
タイノデアリマス、斯ウ云フヤウナコトニ
端ヲ發シテ、滿洲國ハ又日本ト同ジヤウナ
共助法ガ出ルカモ分ラナイガ、是ハ何人モ
知ッテ居ル者ハナイ、アナタノ仰シヤルノ
ハ、滿洲國トモ色々相談ノ結果、日本ガ出
セバアッチモ出スト云フヤウナ色々話合
ヒノ結果、斯ウ云フコトニナッテ居ルノデア
リマセウ、ソレハマア内輪ノ話デアッテ、事
務ニ關スル打合せハ確ニナサッテ居ルニ相
違ナイガ、私ノ御尋スルノハ、アナタノ御
領分ニ屬スル條約ヲ三下リ半デモ宜シイカ
ラ、條約ヲ結ンデ、然ル後ニ斯ウ云フ事務
ノ法律ヲ制定スルノ擧ニナゼ出ラレナカッタ
カト云フコトニ付テ、御尋致シテ居ルノデ
アリマス

○三谷條約局長 只今御質問ニナリマシタ
點ハ、第一ニ我ガ國民ノ保護ノ爲ニハ、斯
ウ云フヤリ方デハ不十分デハナイカト云フ
點デゴザイマシタト存ジマスカ、度々同ジ
コトヲ繰返シテ洵ニ相濟ミマセヌケレドモ、
滿洲國ニ於ケル司法檢察制度ト、又司法檢
察ソレ自身ニモ、日本ノ指導及ビ日本人モ
實際ニ參加シテ居ル割合ガ非常ニ多イノデ
アリマシテ、實際内面的ニ日本人ガ日本ノ
方デ働キ掛ケル方法ニ依リマシテ、日本人
ノ保護ニ於テハ十分盡シ得ルト考ヘテ居ル
ノデゴザイマス
ソレカラ犯罪人引渡條約ハドウニデモ約
束出來ルデハナイカト云フ點ハ、洵ニ仰シ
ヤル通りデゴザイマシテ、如何様ナ規定デ
モ出來ルノデアリマスカ、所謂國際慣例トシ
テアリマス犯罪人引渡條約ハ、例ヘバ原則
トシテ政治犯罪ヲ除外シテ居ルト云フヤウ
ナ工合デアリマシテ、サウ云ッテ形ノ條約ガ
多イノデゴザイマス、我國ト滿洲國トノ關
係ハ、恐ラク世界ニ他ニ類ヲ見ナイカト思
フノデアリマスカ、我國ト滿洲國トノ間ニ
於キマシテハ、所謂國際慣例トシテ出來テ
居リマス國際條約ハ當嵌ラナイト云フコト
ヲ申上ゲタノデゴザイマシテ、條約ノ内容
ハ如何様ニモ規定シ得ルコトハ事實デゴザ
イマスルガ、只今申上ゲマシタヤウニ、滿
洲國ト日本トノ條約上或ハ實際上ノ特殊ナ
關係ニ基キマシテ、只今政府ガ考ヘテ居リ
マスヤウナ方法ニ依ッテ、十分日本人ノ保護
モ出來、ソシテ且ツ有效ニ兩國ノ安寧秩序

ヲ維持シ得ル、兩國ノ安寧秩序ヲ維持シナガラ、兩國ノ國民ノ權利ヲ保全スルト云フノニ、此方法ニ依ッテ十分デアルト、斯ウ云フ風ニ考ヘタノデゴザイマシテ、此司法共助ニ付キマシテハ、實ハ犯罪人引渡ニ付テハ、日米間ノヤウナ條約ガゴザイマスガ、其外ノ問題ニナリマス、慣行ノ一方的ナ法律ニ依ッテ司法共助ヲシテ居ル例ガ澤山アルノデゴザイマシテ、例ヘバ我國ニ於キマシテモ、是ハ送達トカ、證據調トカ云フコトデアリマスガ、多數ノ國ト實際上一方的ノ法律ニ依ッテ司法上ノ共助ヲシテ居ルヤウナ次第デアリマス

○原(夫)委員 外務當局ニ對シテハソレダケ御尋シテ置ケバ宜シイノデアリマス、先程ノ續キデアリマスガ、内外地共助法ノ運用ニ付テ、明治四十四年ノ司法事務共助法、即チ内地及樺太、朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島又ハ帝國ノ領事裁判權ヲ行フ地域ニ於テ司法事務ヲ取扱フ官廳間ノ司法事務ノ共助法デアリマス、此共助法ノ第二條ニ規定致シテ居ル第三號ノ「令狀ノ發付及執行」是ガ度々刑事局長ノ御言葉中ニ現レタ點デアリマスガ、此令狀ノ執行ト云フ中ニハ、内地ノ法律ト違ッテ、朝鮮アタリデ見レバ、實際ニ於テ檢事ガ令狀ヲ發付致シテ居ル、其

令狀ヲ内地ヘ對抗セシメテ、サウシテドウカ此令狀ヲ執行シテ貰ヒタイト云フ共助方ヲ申告スル場合、私ハ此法律ノ立前カラ言ウタナラバ、ソシナ檢事ノ發付シタ令狀ト云フモノヲ内地ノ法律ニ照ラスト云フト、内地ノ法律デハソレハ令狀ニナラナイノデアル、權限ノナイ者ガ發付致シテ居ル令狀デアルカラ、ソシナ令狀デ内地ノ國民ガ、我國ノ刑事訴訟法ヲ立前ニシテ人權ヲ擁護シテ貰ッテ居ル立前ニ於テ、ソレハドウモ執行ヲ受ケルコトガ出來ナイ、之ヲ執行スルコトガ出來ナイト云フコトガ——憲法ト我國ノ刑事訴訟法トノ規定トヲ照シ合セタナラバ、ソシナ令狀デ執行スルト云フコトニ共助ヲ與フルベキモノデヤナイト、私ハ論理解釋上當然ノ解釋ト思フノデアリマスガ、先ヅ其點ニ於テ刑事局長ハドウシテモソレヲ令狀ノ執行ト書イテアル以上ハ、ソレハ朝鮮デハ令狀デアルカラ内地ヘ持ッテ來デモヤハリ令狀ダ、其令狀ヲ共助法デ規定シテ居ルカラソレヲ執行シテヤラナケレバいかス、斯ウ云フ文字ニ囚ハレ、論理ノ解釋ヲソツチ除ケニシテ、ソレデ以テドシ——共助ヲ與ヘテ行クト云フコトニナレバ、例ヘバ朝鮮ニ於テ是カラ巡查ニデモ令狀ヲ發付スル權限ヲ與ヘルカモ知レス、其場合ニ於

テモ、日本ノ國民ハ始終外地ノ法律ノ改廢ニ依ッテ我國ノ人權ガ動搖ヲ來ス、我國ノ檢事トシテサウ云フヤウナ令狀ニ對シテ共助ヲ與フルベキモノデナイト云フコトハ、憲法ノ精神カラ考ヘテ當然デアルト思フノデアリマスガ、ヤハリ前説ヲ固執セラレルモノデアリマスカドウカ、慣例ハサウ云フ風ニナッテ居ルヤウデアリマスガ、先ヅ其點カラ確メテ行キタイ

○松阪政府委員 解釋ノ相違ニナリマシテ甚ダ恐縮デアリマスルガ、先程來繰返シテ申シマスル如ク、内外地間ノ司法事務共助ヲ規定シテ居リマスル司法事務共助法ニ謂フ、令狀ノ發付及執行ト申スノハ固ヨリ召喚狀、勾引狀、勾留狀及ビ逮捕狀ヲ申スノデアリマス、其令狀ハ、内地ニ於ケルソレ等ノ令狀ノミナラズ、外地ノ朝鮮トカ或ハ臺灣トカニ於ケルソレ等ノ令狀モ謂フノデアリマシテ、共助法ハ雙方ニ適用ガアルノデアリマス、法域ガ異ル間ノ共助ヲ致スノデアリマスカラ、ドウシテモキツパリトハ總テハ一致シナイノデアリマス、隨テ各其法域内ニ於テ有效ニ發セラレタル令狀ハ、他ノ法域ニ於テ其儘之ヲ有效トシテ取扱ハレルト云フ趣旨ノ下ニ立法セラレタルモノガ、此司法事務共助法デアルト、斯様ニ政府

ハ解釋致シテ居ルノデアリマシテ、隨テ御話ノ如ク朝鮮ニ於テハ、内地ノ檢事ヨリモ勾引狀ヲ發付スル權限ガ非常ニ廣イノデアリマス、内地ノ檢事ナラバ發シ得ナイモノデモ、朝鮮ノ檢事ナラバ發シ得ル場合ガアルノデアリマス、左様ナ廣イ範圍ニ於テ發シマシタ令狀デモ、朝鮮ノ法令ニ依ッテ適法ニ發付セラレタル以上ハ、内地ノ檢事ハ其執行ニ應ズルノデアリマス、同様ニ外地ニハ内地ノ所謂二百五十五條ニ依ル強制處分ノヤウナ令狀ハナイト思ヒマス、二百五十五條ハ判事ガ被疑者ニ對シテ勾留狀ヲ發スル場合デアリマスルガ、外地ニ於テハ、判事ガ被疑者ニ對シテハ勾留狀ヲ發スル場合ガナイ場合ガアリマス、左様ナ場合ニモヤハリ内地ノ刑事訴訟法ニ依ッテ適法ニ發シタル以上ハ、向フニ於テモヤハリ適法ナモノトシテ執行シナケレバナラス、法域ヲ異ニシテ居ルノデアリマスカラ、左様ニオ互ニ適法ニ法域内ニ發セラレタモノハ、適法ニ扱フト云フコトガドウシテモ必要ニナル、政府トシテハ左様ニ解釋シテ居ル次第デアリマス

○原(夫)委員 是レ以上ハ意見ノ相違ニナリマスガ、大體サウ云フヤウナ御解釋デアルトスレバ、其解釋ト云フモノハ法律デハ

一向現ハレテ居ナイ、本法ノ此日滿關係ニ於テモ、滿洲國ノ治外法權ノ問題ハ漸ク本年ニ至ッデカラ實施サレタト思フノデアリマス、諸事雖然トシテ法規典章等ガマダ十分ニ備ッテハ居ナイ、ソレモアル、政略上カラ日本ガ世界各國ニ先ンジテ範ヲ示シタ譯ニナッテ居ル、サウ云フ遷リ變リノ滿洲國ノ司法事務ト我國トノ間ニ於テ、此共助法ヲ制定スルト言ヘバ——外ノ事柄ハ私ハ左マデニ思ハナイ、少クトモ人權ノ問題ニ關シマシテハ、結局滿洲デハ巡查デモ勾引狀ヲ發行スルコトモ出來ルト云フヤウナ例外規定ガ設ケラレルカモ知レナイ、ソレヲ我國ニ持ッテ參リマシテ、我國ノ國民ヲドシ／＼拘引狀ニ依ッテ送ラナケレバナラスト云フヤウナ結果ニナッタナラバ、立前ガ大變ナコトデアルト思フ、ソレハサウ云フヤウナコトガアルカラ茲ニ意味ハマダ徹底シマセヌケレドモ、第二條ノ「法律上許スベカラザルモノナルトキ」ト云フノデハナク、「公益ヲ害スル虞アルトキ」ト云フノデハナク、廣イ文字ヲ以テ、不相當ナルトキハ執行セザルコトヲ得ルト云フ、其「不相當」ト云フ三字デ以テ一切ノ關係ヲ此ノ中ニ包含セシメテ、「カムフラージュ」ト言ヘバ語弊ガアリマスケレドモ、「不相當」ト云フ三字デ以テ蔽ヒ

盡サントスルト云フコトハ、國民側トシテハ茲ニ非常ナ懸念ナキヲ得ナイノデアリマス、何時モ法律發布ノ場合ニ於テノ規定ノ解釋ハ、朝野共ニ明ニナッタ程度デ分レルノデアリマスケレドモ、段々月日ノ經ツニ從ッテ色々ナ解釋ガ現レテ來ルト、此曖昧ナ文字、或ハ廣汎ナル規定ト云フモノガ皆變ッテ參ルノデアリマシテ、此「不相當ナル」ト云フコトデ、滿洲國ノ巡查ガ發行シタ勾引狀ニ對シテモ、ドシ／＼日本人ヲ送ラナケレバナラス、或ハ非常識ナ檢事ニ掛ツタナラバ、ソレハドウモ自分ノ認定權デアッテ、ソレハヤハリ效力ヲ持ツ、向フデハサウ云フ權限ヲ持ッテ居ル者ガ發令シタノダカラ、已ムヲ得ナイデヤナイカト云フヤウナコトニ解釋セラレル、却テ是ハ日滿間ノ親善ヲ害スル基ニナル、斯ウ云フコトヲ憂フルノデアリマスガ、此點ニ關シテモウ少シ明確ナル規定ヲ設ケタラ如何デセウカ

○松阪政府委員 巡查ガ滿洲國ニ於テ勾引狀ヲ發スル場合ノヤウナモノヲ滿洲國ノ法律ニ規定シタナラバドウスルカ、危險デハナイカト云フ御説デアリマシタガ、日滿司法事務共助法ニ於キマシテハ、第一條ニ依ッテ裁判所ト法院ノ間、檢事局ト檢察廳ノ間ニ於ケル司法事務ノ共助ヲ規定致シテ居ルノデアリマスカラ、滿洲國ノ警察官ガ勾引狀ヲ出シマシテモ、左様ナ搜查機關ノ一種デアアル警察署ニ屬スル警察官ノ事務ヲ、内地ノ檢事局ガ共助ニ應ズル義務ハ、此日滿司法事務共助法ノ明文カラ致シマシテモ生ジナイノデアリマス、其點ハ心配ニハ及バナイト存ジマス、ソレカラ運用ノ問題デアリマスルガ、日本人ニ關スル事柄ニ付キマシテハ、滿洲國ニハ多數ノ日系官吏ガ行ッテ居リマシテ、日本人ニ關スル裁判ハ所謂涉外事件ト申シテ居リマシテ、日系ノ判檢事、審判官、檢察官ガ扱フコトニナッテ居リマス、而モ内地カラ相當ナル判檢事ガ澤山向フニ參ッテ居リマス、ソレ等ノ人ガ扱フノデアリマスカラ、サウ甚シキ亂暴ナル囑託ハナイト云フコトヲ豫想致シテ居リマスシ、萬ガ一アリマシテモ、今申ス通り、「不相當ナルトキハ」ト比較的拒絕シ易キ、廣キ解釋ノ餘地アル意味ノ言葉ヲ以テ拒絕シ得ル場合ヲ規定シテ居ルノデアリマスカラ、運用上私ハ決シテ心配スルコトハナイト信ジテ居ル次第デアリマス

○原(夫)委員 最後ニ一點、此十五條デスガ、「滿洲國ノ法院又ハ檢察廳ガ囑託ニ因リ爲シタル行爲ハ帝國ノ法令ノ適用ニ關シテハ帝國ノ法令ニ依リ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス」是ハコッチカラ囑託シテ、滿洲國デ取扱ッテコッチヘ返シテ貰ッタト云フ場合ノ規定ト存ズルノデアリマスガ、例ヘバ滿洲國ノ檢察廳ガ同廳ノ法規ニ依ッテ檢事ニ強制力ガ許シテアル、其檢事ガ強制力ヲ行使シテ色々ナ搜查ヲ爲シタト假定致シマスルナラバ、其書類ガ返ッテ來ル場合、ソレハ日本帝國ノ法令ニ依ッテ爲シタモノト同一ノ效力ヲ有スルト云フヤウニ規定致シテアル、是ハ事實ニモ違フシ、又法律ガ似寄ッテ居ルナラバ、僅カナコトハ同一ノ效力ヲ有スルモノト看做サレル規定ノ下ニ運行セラレテモ宜シイトハ思ヒマスケレドモ、實際ニ於テ強制力ヲ持タナイ檢察當局ガ、ヤハリ此囑託ノ事項ニ付テ強制力ヲ行使シテヤッタト云フ場合ニ於テハ、其書類ガ後ニ公判廷デ問題トナル場合ガ多イト思フノデアッテ、結局任意ノ供述デアアルカドウデアアルカト云フ問題ニ付テモ色々意見ガアルト思フノデアリマスガ、コンナニ迄強ク規定スル必要ガアルノデアリマセウカ、其理由ヲ承ッテ置キタイト思ヒマス

○松阪政府委員 御心配一應御尤ノヤウニモ存ジマスルガ、共助ノ性質ト致シマシテ、外國ニ於ケル適法ナル共助行爲ガ、ヤハリ內國ニ於テモソレト同様ニ內國法上適法ナ

ル行爲ト致サナケレバ、共助ノ目的ハ達セラレナイノデアリマス、只今捜査ノ點ヲ主眼ニ御述ニナリマシタガ、裁判所ト、法院トノ間ノ共助ニ付テ考ヘテ見マシテモ、日本ノ判事カラ向フノ判事ヘ訊問ノ囑託ヲシタト云フ場合ニ、向フノ判事ガ訊問調書ヲ取りマシテモ、日本ノ内國人カラ申セバ、外國人が勝手ニ作ツタ訊問調書デアリマスカラ、刑事訴訟法上訊問調書ト言ヘナイト云フ結論ニ達スルノデアリマス、日本ノ刑事訴訟法ノ三百四十三條ニ依リマシテモ「被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非ザルモノハ左ノ場合ニ限り之ヲ證據ト爲スコトヲ得」ト云フノデ、非常ナル制限ヲ設ケテ居リマス、滿洲國ノ法院ガ作成シマシタル訊問調書ハ日本ノ法令ニ依リ作成シタルモノデハナイノデアリマスカラ、ソレハ此三百四十三條ノ規定ニ依ッテ日本ノ内地ヘ持ッテ來ルト、ソレハ訊問調書デハナイカラ、法律上ノ效果ガ無い、證據上ニ引用ガ出來ナイト云フコトニナリマシテハ、實際共助ノ目的ヲ達シ得ラレナイノデアリマス、隨テ此共助ノ目的ヲ達スル上カラ申シマースルト、第十五條ノヤウナ規定ヲ明確ニ置キマシテ、向フニ於テ適法ニヤツタ行爲ハ、ソ

レハ日本ノ刑事訴訟法ニ依ッテ適法ニヤツタモノト其效力ヲ同一ニスルト云フ必要ガ、ドウシテモ共助ノ必要上生ジテ來ルノデアリマスカラ、其邊ノ事情ハ何卒御諒察ヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス

○原(夫)委員 大體此法律ヲ起草セラレタ方々ハ滿洲國ノ法律關係ヲ頭ニ置イテ作ラレタモノト想像スルノデアリマスガ、ドウモ規定シテ詳カナラザルヤウニ思フノハ、例ヘバ今ノ法院ノ囑託ノ場合、檢察廳ノ囑託ノ場合、或ハコチカラ兩者ニ對シテ囑託スル場合、是ハ皆一律ニ規定セラレテ、事簡明デ濟ムヤウデアアルケレドモ、更ニ又勾引狀ノ發付又ハ執行ト云フヤウニ一樣ニ書イテアル爲ニ、段々聽イテ見ルト、勾引狀ノ發付ト云フノハ殆ド稀ナ場合デアアル、勾引狀ノ執行ハアリマセウガ大シタ效用ガナイト云フヤウニ、同ジ書イテアルコトガ皆領分ガ違フ、斯ウ云フコトデハドウモ國民ノ側、辯護士ノ側、檢事ノ運用等ニ於テ後日甚ダ疑ガ起ツテ來ヤシナイカト私ハ思フ、唯知ツテ居ラル、ノハ是ガ起草ニ當ラレタ司法省關係ノ諸君ガ皆御詳シイダケデアアル、訴訟手續、共助法ノ運用ハ刑事訴訟法ノ附帶規定ノヤウナ譯デアリマシテ、是ハモウ少シ明ニ、具體的ニ規定スル運ビンドウシ

テ至ラナカッタモノデアリマセウカ、念ノ爲ニ御尋致シテ置キマス

○松阪政府委員 更ニ詳シキ規定ヲ何故シナカッタカト云フ御尋デアリマスガ、私共起草ニ當リマシタ者ニ於テハ、大體之ニ於テ明瞭デアアルト存ジテ居ルノデアリマスルガ、尙ホ此法ノ運用ニ付テハ固ヨリ人權ニ關スルコトガ多イノデアリマス、非常ニ慎重ヲ期サナケレバナリマセヌシ、適正ナル運用ヲ圖ラナケレバナラヌノデアリマスルカラ、是ガ實施ニ當リマシテハ、全國判檢事ニ向ッテ立法ノ趣旨其解釋等ヲ誤ラザルヤウニ十分ナル努力ヲ拂ヒ、注意ヲ致ス覺悟デ居リマス

○原(夫)委員 尙ホモウ一點デスガ、ヤハリ此勾引狀ノ發付ノ囑託ノ件ニ付キマシテ、第六條ノ規定ニ依レバ、檢事ガ裁判所判事ニ請求ヲ致シテ其發付ヲ爲シタ場合ニ於テ、ドウソレヲ結末ヲ付ケルカト云フ問題ニ付テハ、ソレハ日本ノ警察官ニ此勾引狀ヲ執行セシメテ、サウシテ滿洲國境マデ連レテ行カス、斯ウ云フコトニナルノデスガ、勾引狀ト云フモノハ言フ迄モナク被告人又ハ被疑者ニ召喚狀ヲ發シテ召喚シヨウトシテモ、ソレガ出テ來ナイ場合ニ、強力ヲ用ヒテ勾引狀ヲ發スルト云フ立前デアアルノデス

ガ、勾引狀ヲ我ガ内地ノ檢事ガ豫審判事ニ請求シテ、豫審判事ガ之ヲ發付スル場合ニ於テ、何人ガ訊問ヲスルノデアリマセウカ、勾引狀ト云フモノハ、結局被告人訊問ノ必要上發スルコトニナルノデスガ、其關係ハドウナルデアリマセウカ

○松阪政府委員 全ク御説ノ通りデアリマシテ、勾引狀ノ發付ハ、訊問ノ爲ニ其前提トシテ本人ガ召喚ニ應ジナイトカ、或ハ逃亡ノ虞アル時ニ勾引スル、全ク目的ハ訊問ノ爲デアリマス、隨テ第六條ニ依ル勾引狀モ判事ガ發付スルノデアリマスガ、是ハ滿洲國ノ檢察廳ヘ勾引スル、新京ナラ新京ノ警察署ヘ勾引スルト云フ勾引狀ヲ、日本ノ區裁判所ノ判事ガ出シマシテ、第四項ニ依リマシテ、其勾引狀ヲ檢事ニ送付スル、檢事ハ日本ノ刑事訴訟法ノ規定ニ依リマシテ、令狀ノ執行デアリマスカラ警察官ニ命令スル、日本ノ警察官ハ其執行トシテ國境マデ連レテ行ク、國境カラ先ハ向フノ警察官ガヤル、其執行トシテソレヲ致シマシテ、滿洲國ノ新京ナラ新京ノ檢察廳ヘ連レテ行ク、其勾引狀ヲ連レテ來ラレタ者ニ對シテ、滿洲國ノ檢察官ガ——無論審判官ガ出シタ場合ニハ、法院ガヤルノデアリマスガ、ソコニ於テ滿洲國ノ法院又ハ審判官又ハ檢察

官ガ訊問スルノデアリマス

○**原夫委員** サウ云フ規定ハ、茲ニヤハリ特別法ノヤウニナツテ居ルカラ、ドウモ規定セラレナイト云フト、之ヲ見タノデハ吾吾ニハ能ク分ラヌノデアリマス、是ハ手續法デアルノデアリマスルガ、第六條ニ依ッテ區裁判所ノ判事ニ勾引狀ノ發付ヲ請求スルコトガ出來ル、其請求ヲ受ケタ判事が其處分ニ關シテ豫審判事ト同一ノ權ヲ有スルト云フノハ、ドウ云フ事柄ニ屬スルノデスカ

○**松阪政府委員** 日本ノ刑事訴訟法ニ依リマシテ、判事が強制力ヲ用ヒテ總則ニ依ル押收、搜索或ハ勾引、勾留ヲ行フト云フコトハ、裁判長又ハ豫審判事ニ與ヘラレテ居ル權限デアリマスカラ、之ヲ區裁判所ノ判事ニ對シテモ、ヤハリ豫審判事ト同一ノ權ヲ有スルコトニ致サナケレバ、日本ノ刑事訴訟法總則ノ規定ヲ運用ガ出來ナイノデアリマス、刑事訴訟法ノ第二百五十五條ニ於キマシテモ、全ク是ト同一ノ規定ヲ置キマシテ、區裁判所ノ判事ニ豫審判事ト同一ノ權利ヲ與ヘルコトヲ呈示シテ居ルノデアリマス、尙又規定ガナイカラ甚ダ分リニクイト云フ話デアリマスガ、此日滿司法事務共助法ノ第十一條ニ於テ「受託事項ハ帝國ノ法令ニ依リ之ヲ實施ス」ト云フコトヲ規定致

シテ居リマスガ、總テ其實施ニ付テハ、日本ノ刑事訴訟法ニ依リマシテ、日本ノ裁判所又ハ檢察官實施ヲ致スノデアリマスルカラ、詳シク規定ヲシナクテモ、刑事訴訟法ノ規定ヲ見レバ自ラ分ル、刑事訴訟法通りヤッテ行クノダト云フコトデ、明瞭デアルト思フノデアリマス

○**原(夫)委員** 豫審判事ト同一ノ權ヲ有スルト云フ點ハ、今ノ勾引狀發付ノ場合ダケヲ承ツタノデアリマス、私ノ間ハントスル所ハ勾引狀發付ノ請求ヲ受ケタ時ニ、區裁判所ガ、豫審判事ト同一ノ權ヲ有スルト云フコトハ、ドウ云フ譯デアアルカ、斯ウ云フ點デアツタノデアリマシテ、ソレカラ尙ホ第十一條ヲ引用セラレタノデアリマスガ、「受託事項ハ帝國ノ法令ニ依リ之ヲ實施ス」勾引狀ノ場合ニ於テハ、此十一條ハ取除クコトニナル譯デアリマスルカラ、勾引狀ニ關シテノ點ダケヲドウゾ……

○**松阪政府委員** 刑事訴訟法ノ第九十七條、被告人ノ勾引勾留ノ場合ニ於キマシテハ、先ヅ八十三條ヲ見マシテモ「裁判所公訟ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ召喚スヘシ」トアリマシテ、召喚スルノハ裁判所デアリマス、勾引ニシテモ同様デアリマス「被告人再度ノ召喚ヲ受ケ故ナク出頭セサルト

キハ之ヲ勾引スルコトヲ得」是ハ八十六條ニアリマス、總テ裁判所ヲ主體ニ書イテ居リマス、所ガ後ノ法文百二十二條ニ「豫審判事ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス」トアリマシテ、豫審判事ハ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權限ヲ與ヘラレテ居ルノデアリマス、豫審判事ハ此百二十二條ガアリマスカラ、初メテ被告人ヲ勾引シ得ルノデアアル、然ルニ區裁判所ノ判事ニハ左様ナ同一ノ權利ヲ有スル規定ガナイノデアリマスカラ、區裁判所ノ判事ニヤラセル場合ニ、豫審判事ト同一ノ權利ヲ有スルト云フコトヲ書キマセスト、刑事訴訟法ノ規定上運用ガ付カスコトニナツテ居リマス、ソレデス様ナ規定ヲ設ケタ次第デアリマス

○**原(夫)委員** 私ノ質問ハ大體終リマシタ

○**松永委員長** 外ニ御質疑ハアリマセスカ

○**長谷委員** 私ノ御尋致シタイ所ハ、モウ皆サン殆ド御濟ミニナツタ一番最後デ、或ハ質問ノ要點ヲ離レテ居ルヤウナコトニナルカモ知レマセヌガ、此法自體ノ精神ト云フモノモ一應承リマシテ、吾々贊成ノ意向ヲ持ツ上ニ於キマシテモ、一層其氣持ヲ強メタイト考ヘテ居リマス、ソレハ先程私原サンノ御質問ニ附帶致シマシテ、日滿司法

事務共助法ノ第二條ヲ御尋致シタノデス

ガ、第一項ハ餘程疑義ガ起リ易イ所ノ形ニナツテ居リマス、斯ウ云フヤウナ問題ハ、雙方共不均衡ノナイヤウニ、滿洲國モ日本國モ此法文ト云フモノノ具體的事例ニ關シテ、限度ヲ決メテ置カナケレバナラヌ問題デハナイカト思フノデスガ、勝手ニ向フノ方ハ第一項ノ上段ノ一番最後ノ「之ヲ爲サザルコトヲ得」ト云フヤウナ所マデ引付ケテシリシマシテ、コ、デ兩者ノ間ニ解釋上ノ違ヒガナイヤウニ打合せ置キテ願ヒタイト實ハ考ヘテ居リマス、ソレカラ先程私ガ御尋致シマシタ、ヤハリ公益ヲ害スル虞アルトモ出ル、サウ云フヤウナ場合ハ巨細ニ是ハ斯ウ云フ風ナ場合ハヤッテ宜シイノダ、慥カ貴族院ノ方ノ速記録ノ中ニモ事例ハ載ッテ居リマスケレドモ、是モヤハリ具體的ニ相互ノ打合せヲシテ置イテ戴カスト云フト、却テ訴訟ノ煩雜、色々ノ煩雜ヲ來スト云フ風ニナルノデハナイカト思ハレルノデアリマス、ソコデ後ニモ申上ゲマスガ、斯ウ云フ點ニ絡ンデ此法律ガ先程原サンガ申サレマシタヤウニ、成程日本ト滿洲國トハ同一ノ基礎ノ下ニ是等ノ司法共助ヲヤッテ行キ

事務共助法ノ第二條ヲ御尋致シタノデス

タイ、斯ウ云フ御見解カラ、時ニ相互ノ打
合セ位ノ程度デ寧ロ「スムース」ニヤラレテ
行クト云フ風ナ立前カラ、雙方トモ共同提
案共同實施ト云フ風ナ所ヘ持ッテ行カレタ
ト思フノデスガ、今後ヤハリ之ニ關聯致シ
マシテ幾多ノ支障ナリ、或ハ改善シナケレ
バナラス事態ガ起リ得ルノデハナイカトモ
考ヘラレマスノデ、今後日滿間ノ司法事務
ヲ運用スル際ニ於キマシテ、ドウ云フ風ナ
御見解ヲ持ッテ居ラレルカ、統括シタ何カ委
員會ノヤウナモノデモ御作リニナルノカ、
ソコヲ一寸承ッテ置キタイノデアリマス

○松阪政府委員 洵ニ御意見ノ通り、此法

律ヲ實施シマスルニ付キマシテハ、十分ナ
ル注意ヲ拂ハナケレバナラスノデアリマス、
滿洲國ニ於キマシテモ、是ト内容ヲ殆ド同
一、且ツ均衡ヲ得テ居ルヤウナ法律ヲ、滿
洲國ノ國內法トシテ發布スルコトニナッテ
居リマス、其成案ヲ見タ上、本法ノ成立シ
マシタ上ニ於テハ、同時ニ之ヲ實施シタイ
ト云フ考ヲ持ッテ居リマシテ、此間日滿兩國
ノ共助關係ニ於テハ十分緊密ナル連絡ヲ保
タナケレバナラス、又其運用ニ付テモ其適
正ト公平ヲ期サナケレバナラスノデアリマ
ス、十分兩司法部ノ首腦部ニ於キマシテモ
打合セヲ致シマシテ、又其意思ヲ十分ニ裁

判所ナリ、檢事局ナリ、法院ナリ、檢察廳
ナリニ傳ヘルコトニ致シマシテ、其運用ヲ
全カラシメタイト思ッテ居リマス、又委員
會等ノ設置ニ付キマシテハ、只今其點ニ付
テハマダ研究ヲ致シテ居リマセス

○長谷委員

先ヘ進ム前ニ其點ヲモウ一ツ
確メテ置キタイト思ヒマス、唯事項ガ人權
ニ關シ、財産上ノ處分ニ關スル問題モ絡ン
デ居リマシテ、非常ニ大切ナ事柄デアル場
合ニ於テ、幸ニシテ日本ニハサウ云フ事ガ
ナクテモ、滿洲國內ニ於テマダ完全ナ域ニ
達シテ居ラスヤウナ疑ヲ持ツ人モ、世ノ中
ニ無イトハ斷定出來ナイノデスカラ、其際
ニ於テ相互ノ利害ガ相反シタリ、感情ガ絡
ンダリスルヤウナコトニナリマシタラ、結
局上級裁判所、向フデ言フナラバ法院デソ
レヲ統轄ナサレマセウガ、結論ハヤハリ喧
嘩ニナルヤウナコトガ想定サレマスガ、其
意見ノ相違ト云フヤウナコトガアリマシタ
ラ、其點ニ關シマシテ見解ノ相違ダケデ結
論ガ終ルノカ、ソレトモ之ヲ外交關係ト云
フ風ナ所マデ持ッテ行カレルノカ、ソコニ
ツノ打開策ヲ講ジテ置カナケレバナラスノ
デハナイカ、斯ウ私ハ考ヘテ居ルノデス
○松阪政府委員 國家ト國家ノ問題デアリ
マスルカラ、若シ紛争ガ起リマスレバ、最

惡ノ場合ヲ豫想スルナラバ、是ハ外交機關
ニ於ケル折衝ニ俟ツヨリ外ハナイノデアリ
マスルガ、日滿間ハ御承知ノ如ク、殆ド不
可分ト申シテ宜イヤウナ關係ニアリマスノ
デ、萬左様ナ心配ハナイコトト確信致シテ
居リマス

○長谷委員

承リマシテ大變力強ク考ヘテ
居リマス、益、一ツ御努力ヲ願ヒタイト考ヘ
マス、次ニヤハリ此第二條ノ中ニ謳ッテ居
リマスガ、第二項ノ中ニ「受託事項ノ實施」ト
云フコトガアルノデスガ、私第六條ニモ絡
ンデ、之ヲドノ程度ノモノデアルカト云フ
コトガ、實ハマダ明確ニ頭ノ中ニ浮ンデ來
ナイノデアリマス、要スルニ檢事ノ方デ共
助事項ガアツク場合ニ於テ、ソレガ如何ナル
場合ニ於テ必要デアルカト云フコトハ、檢
事獨自ノ見解ニ於テ其必要範圍ヲ定メルノ
デアリマスガ、丁度ハ貴族院ノ方デ局長
ガ御答辯ニナッテ居ラレマシテ、斯ウ云フ風
ナコトガアル、ソレハ「内地デ捜査ヲ致シテ
居ル場合ニハ、勾引狀ノ執行ヲ直チニ行ヒ
マス」と、捜査上支障ヲ來ス場合ガアル「云々
斯ウ云フ風ニ言ハレテ居リマシテ、現實ニ
捜査中ノ事項ニ關聯シテ、滿洲國ノ方カラ
ノ囑託ガアツタト云フ風ナ、現ニコチラノ方
デ犯罪捜査中ト云フヤウニモ取ラレルノデ

スガ、ソレトモソレヲモウ一步超エマシテ、
其事案自體國家ノ爲ニ、日本國內ニ於テノ
犯罪捜査ガ必要ダ、其囑託ノ機會ニ於テ之
ヲ現認シタ場合ト云フ、ソコノ限度ハドウ
云フ風ニナリマセウカ

○松阪政府委員

第二條第二項ハ、例ヲ舉
ゲテ申上ゲマスルナラバ、滿洲國カラ何ノ
某ト云フ者ニ對シテ、是々ノ犯罪事實ヲ搜
査シテ呉レ、或ハ何ノ某ニ對シテ勾引狀ノ
發付ヲシテ呉レト云フ囑託ガアリマシタル
場合ニ、其何ノ某ニ對シテ、日本ノ檢事ガ
別個ノ犯罪事件、内地ノ犯罪事件ノ嫌疑ヲ
以テ捜査シテ居ル、或ハ其者ヲ被疑者トシ
テ勾引シテ居ルト云フヤウナ場合ニハ、日
本ノ裁判ガ濟ムマデ滿洲國ノ捜査ニ應ジ、
或ハ勾引ノ執行ニ應ズルト云フコトハ、日
本ノ捜査ヲ妨グルコトニナリマスルノデ、
其場合ニハ之ニハ應ジ難イ、併ナガラ絶對
ニ拒絶スル譯デナシニ、日本ノ檢事局ナリ、
裁判所ナリニ於テ支障ノ止ム時ニハ差支ナ
イ、隨テ其障礙ノナイ時マデ向フノ囑託ヲ
延滞スル、延滞シタ場合ニ、日本ハ延滞ノ
責任ヲ負ハナイト云フ爲ニ、此第二項ヲ設
ケタノデアリマス、裁判ニ付キマシテモ同
様デアリマシテ、現ニ其何ノ某ニ對シテ日
本ノ裁判所ガ裁判シテ居ル最中ニ、其者ニ

對シテ滿洲國カラ勾引狀ノ執行ヲ囑託シテ來ルト云フヤウナ場合ニハ、其囑託ニ應ズレバ固ヨリ内地ノ裁判ガ進行ヲ妨ゲラレルノデアリマスカラ、裁判ノ濟ム適當ナ、差支ノナイ時ニ至ル迄ハ、之ヲ延期シ得ルト云フ必要ガアル爲ニ、斯様ナ規定ヲ設ケタ譯デアリマス

○長谷委員 能ク分リマシタガ、更ニ其點ヲモウ一遍確メテ置キタイト思ヒマス、私ノ申上ゲタノハ囑託事項ガ、寧ロ被囑託側ノ方デ實際ニ取扱ッテ行ツタ方ガ適切デアリ、又双方ノ爲ニ宜イト云フヤウナ場合ガアリ得ルドラウト思フノデアリマス、サウ云フ風ナ場合ニ於テ、勿論是マデ捜査ニ著手シテ居ラナカッタノデスガ、相手方カラノ囑託事項ニ依ッテ初メテソレガ捜査シナケレバナラス、所謂犯罪ノ認定ヲシタト云フ風ナ場合ニ立至ッテ、其犯罪ノ認定ガ寧ロ向フヘ送ルヨリモ、コチラノ方ガ實際ノ條件ニ於テ完全デアルト云フ場合、犯罪ノ主體ノ一切ノ條件ガ揃ッテ居ルト云フ場合ニ、初メテ其犯罪ヲ発見シタノデスガ、サウ云フ場合デモコチラガ全般的ノ捜査ヲ協力シテ、向フノ方ヘ移牒シテヤルト云フコトニナルノカドウカ、實ハソコヲ懸念シテ居リマス

○松阪政府委員 コチラニ於キマシテ捜査

ヲ致シテ居ル時ニ、私御間ノ趣旨ヲ或ハ能ク了解シナカッタと思ヒマスガ、コチラニ於テ捜査ヲ執行シテ居ル際ニ、先方ノ犯罪事件ガ發覺シタ場合ニドウスルカト云フ風ナ御間デゴザイマスカ

○長谷委員 サウデヤゴザイマセスデ、滿洲國カラ委囑ヲ受ケタ事實ヲ手ニ取ッテ見ルト、國內ニ於ケル重大事件デアッタト云フコトガ初メテ分ツタ場合ニ於テ、滿洲國ハ些々タル資料シカ持ッテ居ラスニ拘ラズ、日本國內ニ於テ重大ナ事實ガ介在シテ居ツタ、寧ロ當方デ調べタ方ガ都合ガ好イト云フヤウナ事案ニ付デモ、尙且ツ此受託事項ガ向フニアルノダカラ、向フヘ捜査ヲ移牒シテヤラナケレバナラスカト云フ問題デス

○松阪政府委員 左様ナ場合ニ於テハ固ヨリ日本ガ捜査權ヲ持チ、ソレニ對シテ日本ガ裁判權ヲ持チ得ル場合デアリマシテ、又日本ニ於テ裁判シナケレバナラス事例ノヤウニモ存ゼラル、ノデアリマス、左様ナ場合ニ固ヨリ日本ノ捜査ハ、其捜査ノ端緒ガ何ニ依ルカラ問ハナイ、内地ノ警察官ガ告發シヤウガ、或ハ滿洲國ノ囑託ニ依ッテ發覺シタ端緒デアラウガ、何レニセヨ、左様ナ場合ニ日本ガ捜査スルノハ當然デアリマスカラ、ヤハリ受託事項ノ實施ガ日本ノ捜査ノ

障礙ニナル場合ニ該當シ得ルモノト思ヒマス

○長谷委員 其點ガハッキリ致セバ宜シイノデ、結局貴族院デノ御答辯ガ、現ニ内地ノ捜査中ノ事項ガ所謂第二項ノ捜査ト云フモノノ限度ダト、實ハ私考ヘテ居リマシタガ爲メ、左様ナ疑ヲ持ッタノデアリマス、ソコデ更ニ進ンデ共同捜査ト云フヤウナ概念ハドウ云フヤウニ説明致シテ宜シイノデアリマセウカ、是ハ具體的ニ申上ゲルト、普通ノ日本ノ裁判所間ノ、檢事局間ノ共同捜査ト云フヤウナ立場ト云フモノハ、絶對ニ司法事務ノ共助ニハ起リ得ナイモノカドウカ、斯ウ考ヘテ居リマス

○松阪政府委員 日本ノ檢事ガ檢事間ニ於テヤッテ居リマスルヤウナ程度ノ共同捜査ト云フモノハ、外國ノ檢察廳ト日本ノ檢事トノ間デスカラ、其通リニハ行ヒ得ナイノデアリマスガ、事實上オ互ニ助合フコトノ必要ガ生ジマスノデ、法規ノ許ス範圍ニ於テハ、事實上共同捜査ニ似タ程度ノ助合ヒヲシナケレバナラスト存ジマス

○長谷委員 私ハ斯様ナ御尋ラシテ最後ノ質問ニ入りタイト思フノデスガ、承ッテ居リマス、全ク日本ノ國內法デ公序良俗ト云フカ、或ハ日本ノ法規ナリ、公益關係、或

ハ治安關係等、特別ナ條件ヲ除イタモノデ、日本臣民ニ對シテ已ムヲ得ナイト云フモノ以外ハ、全部雙方共通デ、一切ノ共助ヲナサルト云フヤウナ御趣旨カラ、此條件ガ出來タト云フコトガ能ク分ツタノデアリマスガ、ソコデ此法律ヲ御作製ニナリマシタ所ノ御趣旨ヲ、最後ニ取纏メテ承ッテ置キタイト思フノデアリマス、先ヅ第一點ハ丁度日本ノ國內ト外地トノ關係モアリ、ソレヲ通リマシテ滿洲ガアルノデスガ、此外地關係ト滿洲トノ關係ガドウ云フヤウニ、法案ガナッテ行クモノカト云フコトヲ一ツ承ッテ置キタイト思ヒマス

○松阪政府委員 如何ニモ御説ノ通り、此日滿司法事務共助法ハ、内地ノ裁判所、檢事局ト滿洲國ノ法院及ビ檢察廳トノ關係ニ於ケル協力ヲ規定シタモノデアリマシテ、此儘直チニ是ガ外地即チ朝鮮、臺灣、關東州等ニハ適用ハナイノデアリマス、朝鮮ニ於キマシテハ制令、臺灣ニ於キマシテハ律令ニ基ク勅令、關東州ニ於キマシテハ勅令ニ依リマシテ、大體此法律ノ内容其儘ノモノヲ施行スルコトニナルデアラウト思ヒマスガ、ソレニ依ッテ滿洲國ト外地間トノ共助ガ行ハレルト存ジマス

○長谷委員 地的範圍ノ點ハ分リマシタ、

サウスルト満洲ヲ相手方トシテノ實質上ノ日本國家トシテノ受託ノ國ハ、朝鮮ガアリ、關東州ガアリ、臺灣ガアリ、日本内地ガアル、斯ウ云フ形ニナルカト考ヘテ居リマスガ、ソコデ法律ハ同ジクモ、手續上ニ於テ出來ルダケ簡易ナ方法ニ御取扱ヲ願フヤウニ御努力願ヒタイト考ヘテ居リマス、次ハ人ノ問題デアリマスガ、是ハ私ノ口カラ申上ゲテハ洵ニ僭越ダト思ッテ居リマスケレドモ、ヤハリ向フノ事務自體ガ内地人ダケデ實施サレルノデスト、吾々トシテモ或ル程度マデ其記錄ト云フモノヲ尊重スルコトガ出來ルノデスケレドモ、是ハ違ッタ人達モ調ベルノデスカラ、サウスルトドウシテモ協力ト云フヤウナ問題ニ絡ンデ來テ、信憑力ノ上ニ非常ナ影響ガ來ルノデハナイカ、斯ウ考ヘラレルノデアリマス、況シテ檢事ノ職權ガ非常ニ廣汎ニナッテ居リマシテ、サウ云フ點ニ於テ吾々ノ信賴スル人達デスト、是ハ直チニ其記錄ヲ採用シテ證據ニ取ルト云フ、コチラ側ノ信憑力ハ付クノデスガ、ソレデ斯ウ云フ觀點カラ見マシテ、現在ハコチラノ方カラ滿洲國ノ方ヘ檢察官ヲ、希望者ノ如何ニ依ッテハ御採用ニナル御手配ガアルヤウデスガ、是ト相關聯シテ、向フノ人達ニ對スル檢察事務ノ指導方針ト云フ

カ、其能力ト云フモノニ對シテ、吾々ハマダ何トナク一抹ノ不安ガアルノデアリマス、其點ニ關聯致シマシテ滿洲國ノ事ヲ今司法當局ニ御尋スルノハ愚ナコトデアリマスケレドモ、滿洲國自體ガドウ云フ風ニシテ今後其檢察官ナリ、特ニ此人權關係ニ携ハル所ノ搜查機關ノ人達ヲ養成スルカ、當局トシテ何等カノ文化機關、教導機關ト云フヤウナモノハナイモノデスカ

マシテ、著々トシテ其效果ガ現ハレ、事實ニ於テ向上シツ、アルト云フコトヲ信ジテ居リマスノデ、今後モ其點ニ付キマシテハ司法省トシテ益、滿洲國ノ是等ノ教養ニ對シテ、協力ヲ致シタイト存ジテ居リマス

マシテ、サウ云フコトヲ避ケラレルヤウニ願ヒマス雙方ノ人間ガ少クトモ一體トナツテ、司法ノ成績ヲ、舉ゲルヤウニ御努力ヲ願フト云フコトヲ申上ゲテ、私ノ質疑ヲ終リタイト思ヒマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○松永委員長 外ニ質疑ハアリマセスカ

○松永委員長 ソレデハ各案ノ質問ハ是ニ

テ終了致シタコトト致シマシテ、明日午

後三時ニ本委員會ヲ開イテ、討論ニ入り採

決ヲスル積リデゴザイマスカラ、左様御諒

承ヲ願ヒタイト思ヒマス、本日ハ之ヲ以テ

散會致シマス

午後四時十四分散會

職權ガ非常ニ廣汎ニナッテ居リマシテ、サウ云フ點ニ於テ吾々ノ信賴スル人達デスト、是ハ直チニ其記錄ヲ採用シテ證據ニ取ルト云フ、コチラ側ノ信憑力ハ付クノデスガ、ソレデ斯ウ云フ觀點カラ見マシテ、現在ハコチラノ方カラ滿洲國ノ方ヘ檢察官ヲ、希望者ノ如何ニ依ッテハ御採用ニナル御手配ガアルヤウデスガ、是ト相關聯シテ、向フノ人達ニ對スル檢察事務ノ指導方針ト云フ

リマシテ、大審院檢事、或ハ大審院判事、又ハ司法省ノ職員等ガ之ニ對シテ教養ニ當ッテ居リマス、モウ既ニ四回バカリサウ云フヤウナ人が教育ヲ受ケテ、歸テ實務ニ就イテ居ル、又年々日本ヘ視察ニ來ル檢察官或ハ審判官モ多々アル、又行刑官ニ付キマシテモ、内地ノ刑務所ヘ見學ニ參ッテ居ッテ、相當之ニ對シテ行刑局デモ應援ヲシ、協力應援ニ當ッテ居ルト云フヤウナ次第デアリ

フヘ入ッタ方ガ自分ノ爲ニ宜イ、又刑務所ヘ入ッタ者モ——此點モ局長ハ貴族院デ申サレテ居リマスガ、ヤハリ入ル方ノ側カラ見タラ、ソコニ非常ナ缺陷ノ殘ル問題ガアルノデスカラ、此點ニ關聯致シマシテモ、雙方餘程均衡シタ取扱ヲ受ケ、均衡シタ刑ノ言渡ヲ受ケ、其執行モ均衡シタ程度ニ行カナイ、選リ好ミスル人ガ殖エテ來テ、却テ煩雜ニナッタリスルノデハナイカト思フノデアリマス、此點ハ是非共御努力ヲ願ヒ

昭和十三年三月十二日印刷

昭和十三年三月十三日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局